

第12章 調査結果のまとめ

1. 緑被率等の推移

表 12-1 調査結果一覧

調査項目	調査対象	令和2年度 (第9次) 調査結果	平成27年度 (第8次) 調査結果	増 減	
空中写真による緑被調査					
緑被率	1㎡以上	17.98%	17.48%	0.49ポイント	
緑被地	1㎡以上	328.16ha	319.14ha	9.02ha	
樹木・樹林		277.67ha	275.31ha	2.35ha	
草地		38.28ha	34.77ha	3.51ha	
屋上緑地		12.21ha	9.06ha	3.15ha	
みどり率	1㎡以上	20.43%	19.94%	0.49ポイント	
		372.84ha	364.07ha	8.77ha	
樹林	100㎡以上	1,761箇所	1,797箇所	△36箇所	
		1,581,190㎡	1,615,192㎡	△34,002㎡	
草地	100㎡以上	468箇所	435箇所	33箇所	
		320,179㎡	281,572㎡	38,607㎡	
屋上緑地	1㎡以上	3,178箇所	2,967箇所	211箇所	
		122,141㎡	90,623㎡	31,518㎡	
現地調査					
樹木	地上高1.5m 幹周り95cm以上	14,489本	14,656本	△167本	
接道 緑化	生垣	5m以上	1,816箇所	1,499箇所	317箇所
			30,587m	26,208m	4,379m
	植込	5m以上	5,290箇所	4,524箇所	766箇所
			87,731m	79,684m	8,047m
壁面緑化	3㎡以上	788箇所	898箇所	△110箇所	
		25,809㎡	29,133㎡	△3,324㎡	
資料調査					
街路樹	—	11,302本	12,011本	△709本	

*面積のうち ha は小数第3位、㎡は小数第1位、割合は小数第3位を四捨五入しており、集計値とあわない場合がある。

1-1 空中写真による緑被調査について

(1) 緑被率、緑被地

緑被率、緑被地は、全体で9.02ha、0.49ポイントの増加となった。増加の主な要因は樹木・樹林の生長、開発事業等による屋上緑地を含めた緑化整備によるものである。一方で、樹木の剪定による樹冠面積の縮小、伐採による樹木の減少等も確認されている。

(2) 樹木・樹林

1㎡以上の樹木・樹林面積は2.35haの増加であった。区内では大規模な開発事業により新たな樹林が整備されており、樹木の生長と合わせて1㎡以上の樹木・樹林は増加となった。一方で100㎡以上の樹林は3.4ha減少しており、特に個人住宅の樹林地が建替え等によって減少している。

(3) 草地

100㎡以上の草地は3.86haの増加であった。増加の要因としては、国立競技場の芝グラウンド、学校の校庭芝生化、大規模な開発事業による芝生地の整備があげられる。また、建築工事等に伴う一時的な草地化も増加要因であるが、次回調査時には消失の可能性があり変動が大きい。

(4) 屋上緑地

屋上緑地は3.15ha増加しており、樹木・樹林の増加面積よりも大きい。特に、事業所、集合住宅、公共施設において増加が大きい。これらの用途では、大規模な建替え、新規の開発事業等が実施されており、面積規模の大きい屋上緑地が整備されている。

1-2 現地調査について

(1) 樹木

樹木本数は167本の減少であった。特に個人住宅での減少が大きくなっている。住宅の建替え等に伴い樹木が伐採されることが、減少の主な要因である。一方で、開発事業等で整備された緑地において樹木が生長し、新たに調査対象となった樹木も確認されている。

(2) 接道緑化、壁面緑化

接道緑化は増加したが、壁面緑化は減少している。接道緑化は緑化計画書制度による緑化指導の効果により、生垣、植込みともに増加が大きい。壁面緑化は個人住宅での小規模なものの減少が多い。

(3) 街路樹

街路樹の樹木本数は709本の減少であった。区道の街路樹本数は増加しているが、都道と国道は減少であった。

1-3 地域別緑被地について

緑被地面積が増加した地域は、大規模な開発事業等が実施されている地域であり、新たな緑地の整備により緑被地面積が増加している。令和2年度(第9次)調査において、最も緑被率が増加した地域は箕苜地域であり、大日本印刷の開発事業により整備された緑地の影響が大きい。箕苜地域では、緑被地のほか樹林面積(100㎡以上の樹林)と接道緑化の増加も10地域中最も増加量が多くなっている。樹木本数は減少したが、今後、新たに整備された緑地の樹木が生長することで、調査対象となる樹木も増加すると考えられる。

一方、緑被率の減少が大きい落合第一地域では、特に樹木・樹林の面積が減少している。樹林面積(100㎡以上の樹林)においても約3.0ha、樹木本数も185本が減少している。落合第一地域は妙正寺川北側が第一種低層住居専用地域に指定され、比較的敷地規模の大きい個人住宅の多い地域であるため、個人住宅の樹木の減少によって緑被率が減少していると考えられる。隣接する落合第二地域では、樹木・樹林面積は減少しているが、草地面積の増加により緑被地全体は増加であった。しかし樹林や樹木は落合第一地域に次いで減少が大きいことから、低層の住宅用地等にある樹木の消失が大きいと考えられる。

四谷地域では、平成27年度(第8次)調査時点において国立競技場が工事中であったため緑被地が減少したが、工事が完了し、新たに芝生地や樹林が整備されている。今後の都立明治公園の再整備によっても、緑被地面積の増加が期待できる。

次ページ以降に、地域別のみどりの状況を示すこととする。

町丁目別の緑被率の変化では、緑被率の増加した町丁目数は103、減少は49町丁目であった。緑被率が減少した町丁目は、落合第一地域、戸塚地域、大久保地域、榎地域内に多い。

区 全 体

位置図

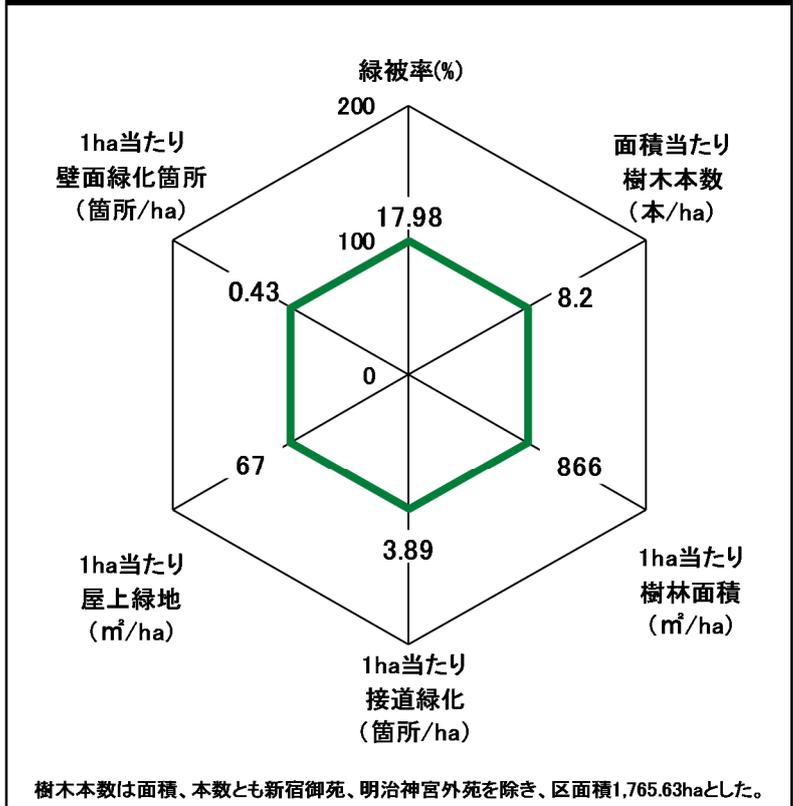


地域面積 1,825.40 ha

都市公園等の整備状況

名称	箇所	面積(㎡)
国民公園等	2	593,011
都立公園	1	186,472
区立公園等	公園等	121
	児童遊園	57
	遊び場	6
	小計	184
他区立公園	2	16,505
合計	189	1,163,889

区全体を100としたときの各数値



緑被

項目	単位	H27	R2	変化
樹木・樹林	ha	275.31	277.67	2.35
草地	ha	34.77	38.28	3.51
屋上緑地	ha	9.06	12.21	3.15
緑被地	ha	319.14	328.16	9.02
緑被率	%	17.48	17.98	0.49

樹林地<100㎡以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	1,797	1,761	△ 36
	㎡	1,615,192	1,581,190	△ 34,002

草地<100㎡以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	㎡	281,572	320,179	38,607

屋上緑地<1㎡以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	2,967	3,178	211
	㎡	90,623	122,141	31,518

樹木<幹回り95cm以上(樹幹直径30cm以上)>

全体	単位	H27	R2	変化
	本数	14,656	14,489	△ 167
太さ別	単位	160cm以上 (直径50cm以上)	125~160cm 未満(直径40~50cm)	125cm未満 (直径40cm未満)
	本数	5,242	4,521	4,726
樹種別	単位	第1位 サクラ	第2位 ケヤキ	第3位 スダジイ
	本数	2,837	2,363	1,392

接道緑化<5m以上>

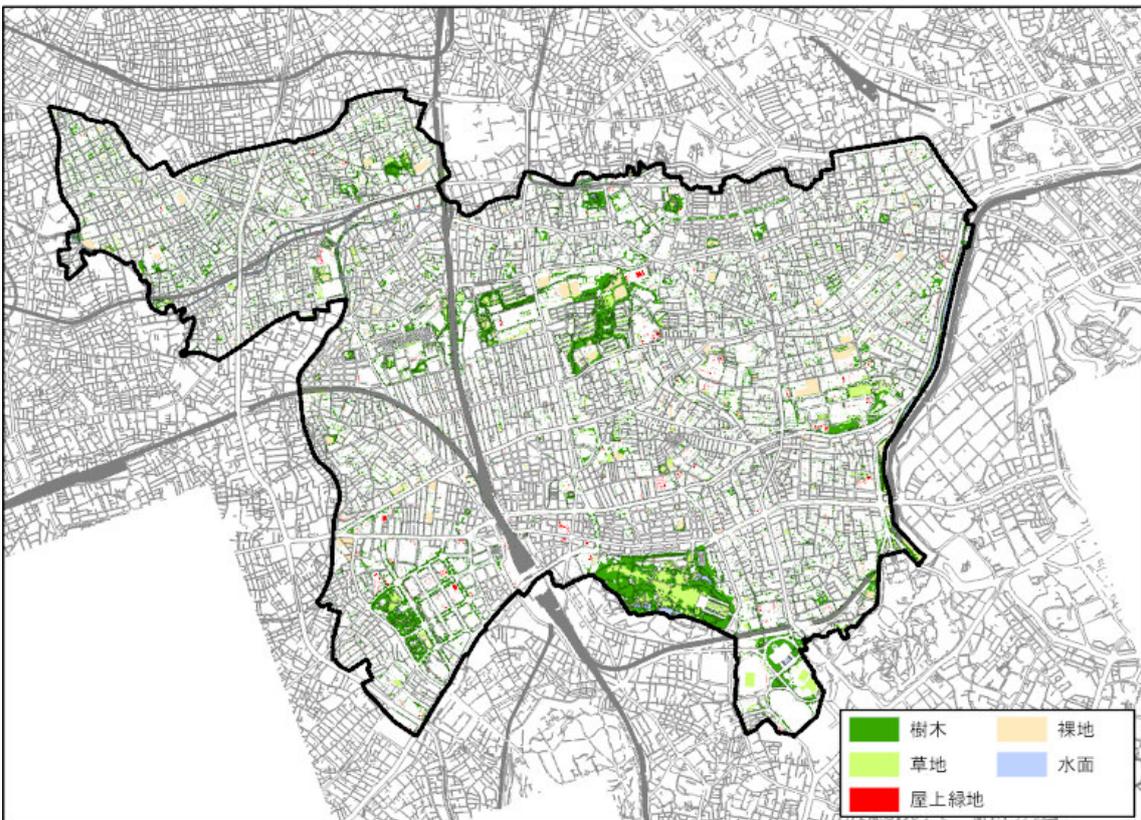
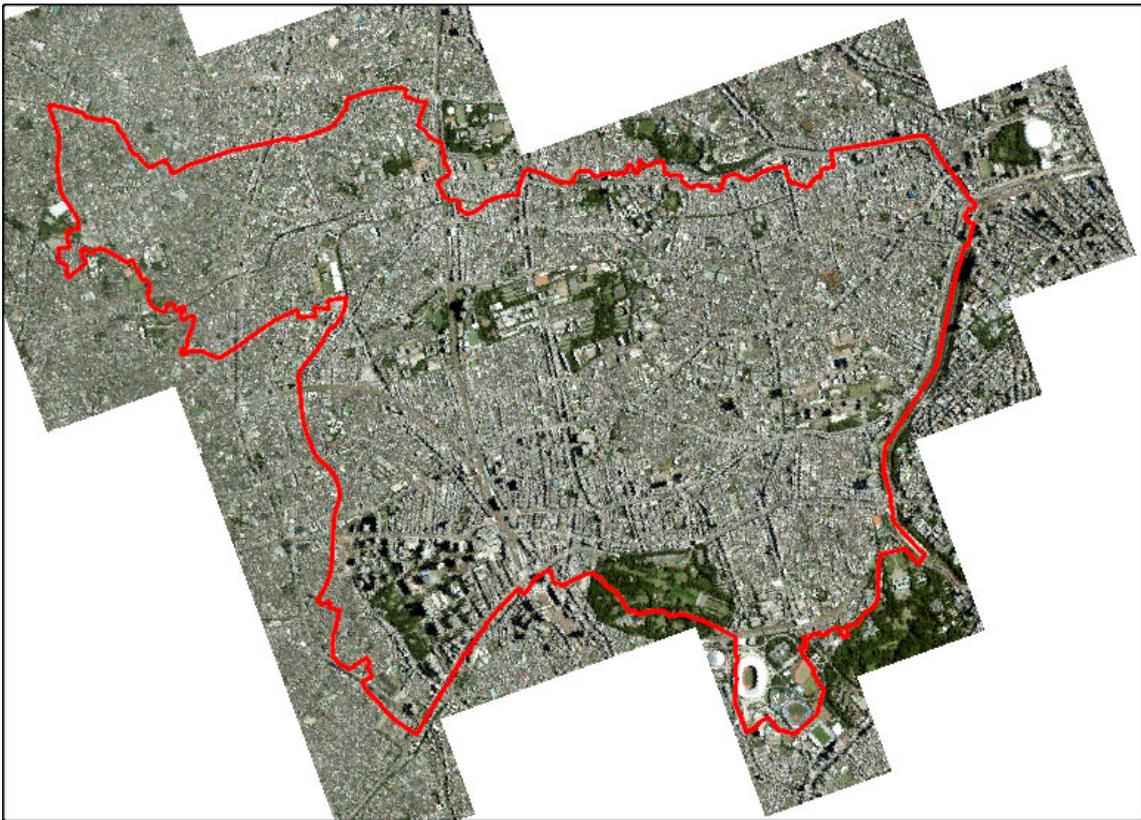
生垣	単位	H27	R2	変化
	m	26,208	30,587	4,379
植込み	単位	H27	R2	変化
	m	79,684	87,731	8,047

壁面緑化<3㎡以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	898	788	△ 110
	㎡	29,133	25,809	△ 3,324

*区全体を100としたときの各数値の桁数は、本文の集計値の桁数にあわせている。

*各集計表は四捨五入による端数処理をしているため表中の集計値が合わない場合がある。

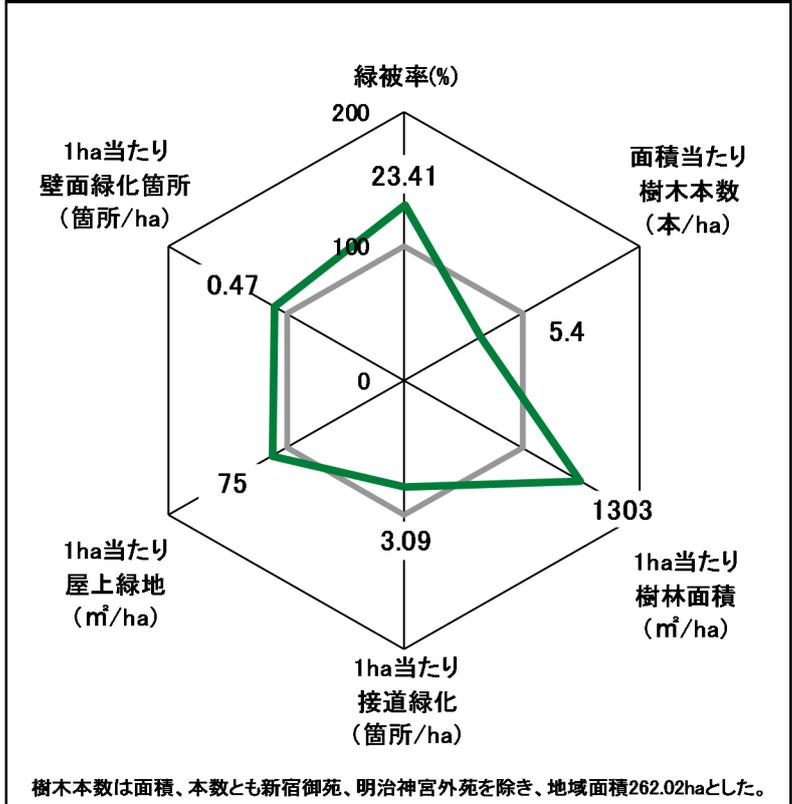


四谷地域

位置図



区全体を100としたときの各数値



都市公園等の整備状況

名称	箇所	面積(㎡)
国民公園等	2	593,011
都立公園	0	0
区立公園等	公園等	19
	児童遊園	13
	遊び場	2
	小計	34
他区立公園	1	12,818
合計	37	650,021

緑被

項目	単位	H27	R2	変化
樹木・樹林	ha	58.59	59.12	0.53
草地	ha	13.23	13.79	0.56
屋上緑地	ha	1.65	2.41	0.77
緑被地	ha	73.47	75.33	1.86
緑被率	%	22.67	23.41	0.74

樹木<幹回り95cm以上(樹幹直径30cm以上)>

全体	単位	H27	R2	変化
	本数	1,481	1,403	△ 78
太さ別	単位	160cm以上 (直径50cm以上)	125~160cm 未満(直径40~50cm)	125cm未満 (直径40cm未満)
	本数	551	444	408
樹種別	単位	第1位 サクラ	第2位 ケヤキ	第3位 イチョウ
	本数	306	203	161

樹林地<100㎡以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	235	273	38
	㎡	416,528	419,188	2,660

接道緑化<5m以上>

生垣	単位	H27	R2	変化
	m	3,837	4,303	466
植込み	単位	H27	R2	変化
	m	13,116	14,673	1,557

草地<100㎡以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	㎡	123,478	129,683	6,205

屋上緑地<1㎡以上>

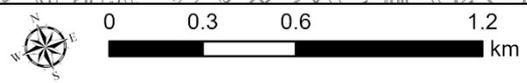
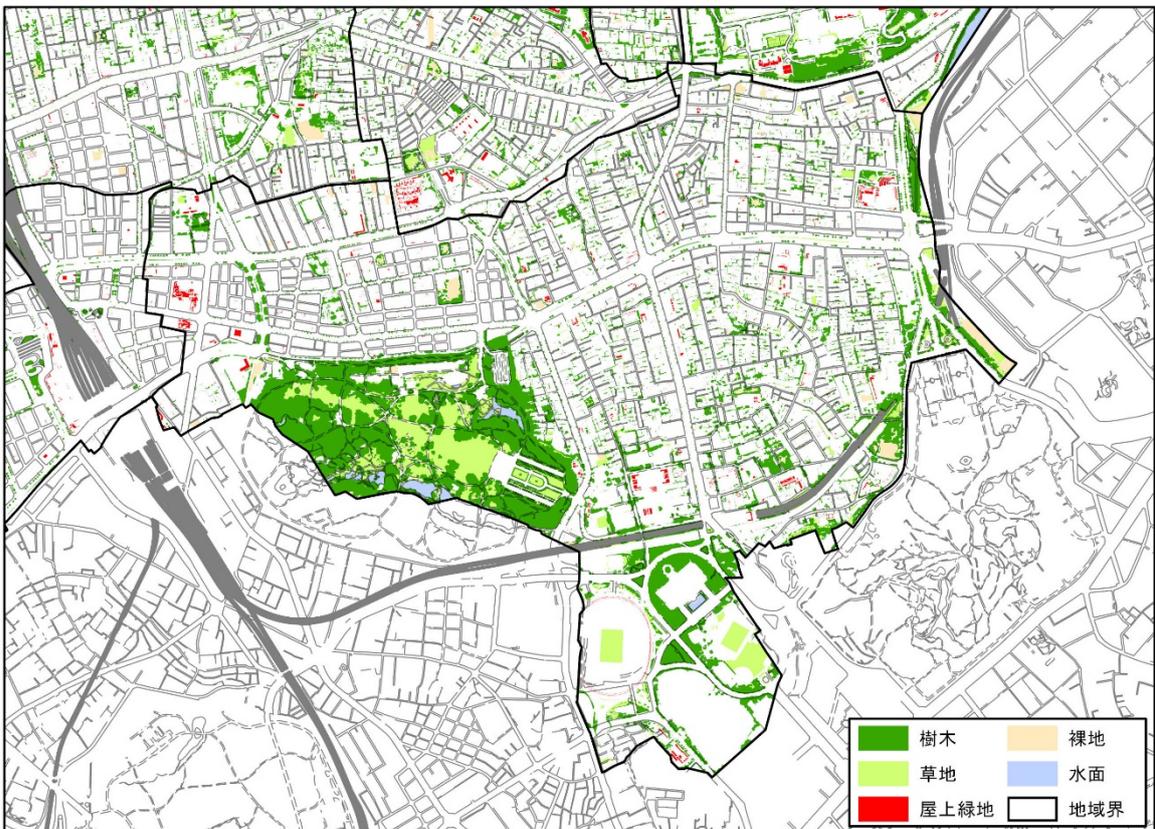
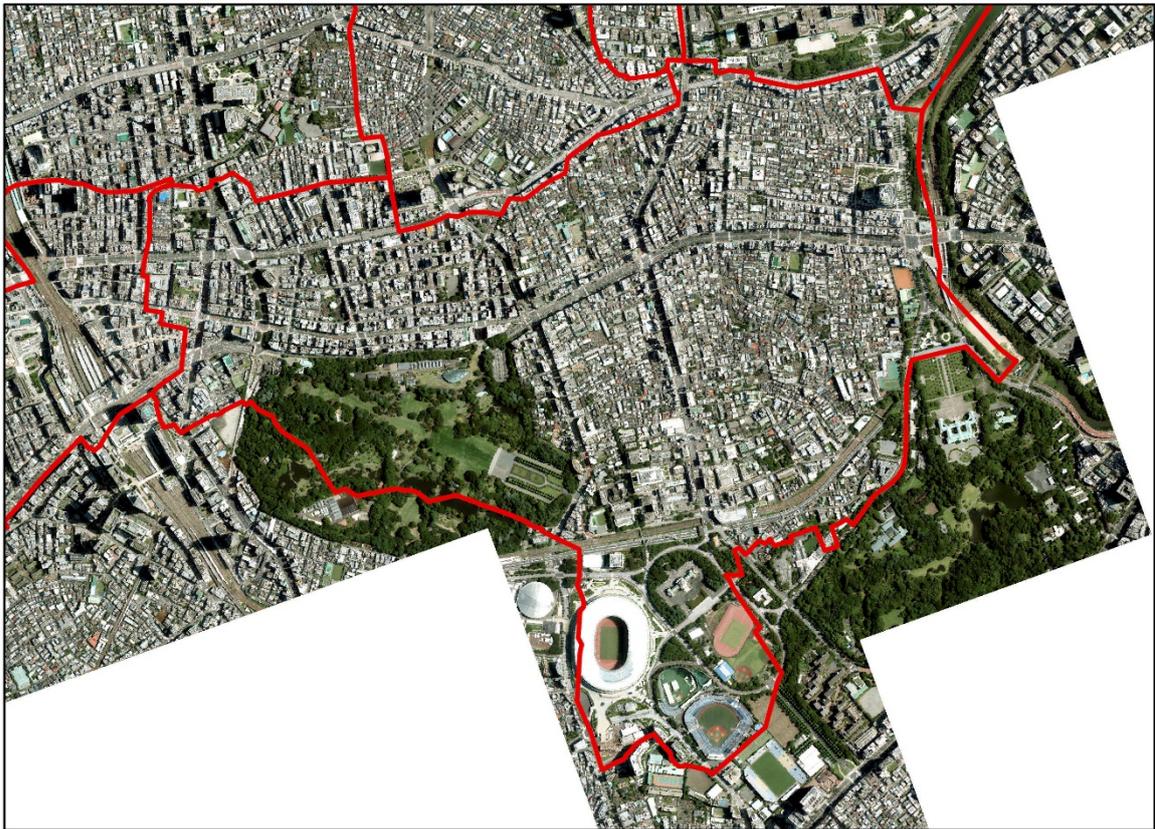
全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	521	559	38
	㎡	16,486	24,145	7,659

壁面緑化<3㎡以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	98	152	54
	㎡	2,229	3,157	928

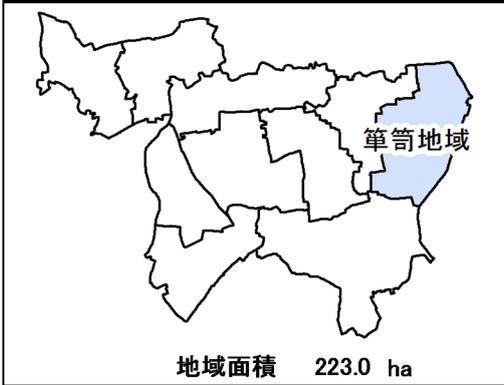
*区全体を100としたときの各数値の桁数は、本文の集計値の桁数にあわせている。

*各集計表は四捨五入による端数処理をしているため表中の集計値が合わない場合がある。

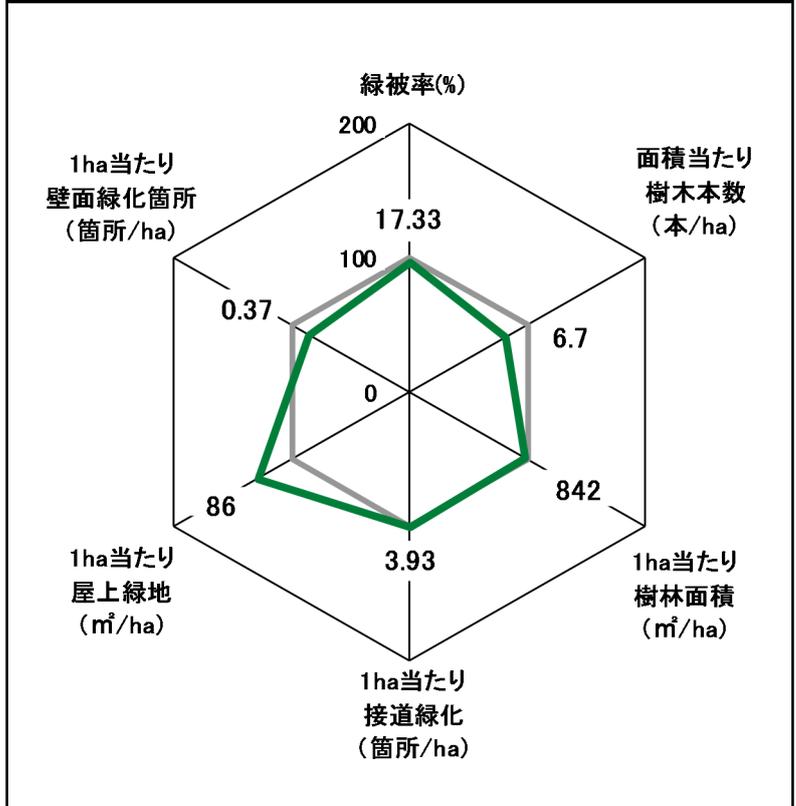


箆筒地域

位置図



区全体を100としたときの各数値



都市公園等の整備状況

名称	箇所	面積(m ²)
国民公園等	0	0
都立公園	0	0
区立公園等	公園等	13,151,147
	児童遊園	4,1,865
	遊び場	1,80
	小計	18,17,092
他区立公園	0	0
合計	18	17,092

緑被

項目	単位	H27	R2	変化
樹木・樹林	ha	28.17	32.19	4.02
草地	ha	5.05	4.53	△ 0.51
屋上緑地	ha	1.40	1.92	0.52
緑被地	ha	34.61	38.64	4.03
緑被率	%	15.64	17.33	1.69

樹木<幹回り95cm以上(樹幹直径30cm以上)>

全体	単位	H27	R2	変化
	本数	1,572	1,491	△ 81
太さ別	単位	160cm以上 (直径50cm以上)	125~160cm 未満(直径40~50cm)	125cm未満 (直径40cm未満)
	本数	473	480	538
樹種別	単位	第1位 サクラ	第2位 スダジイ	第3位 クスノキ
	本数	396	190	167

樹林地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	235	260	25
	m ²	157,696	187,688	29,992

草地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	m ²	40,951	39,173	△ 1,778

接道緑化<5m以上>

生垣	単位	H27	R2	変化
	m	2,997	3,561	564
植込み	単位	H27	R2	変化
	m	9,840	11,547	1,707

屋上緑地<1m²以上>

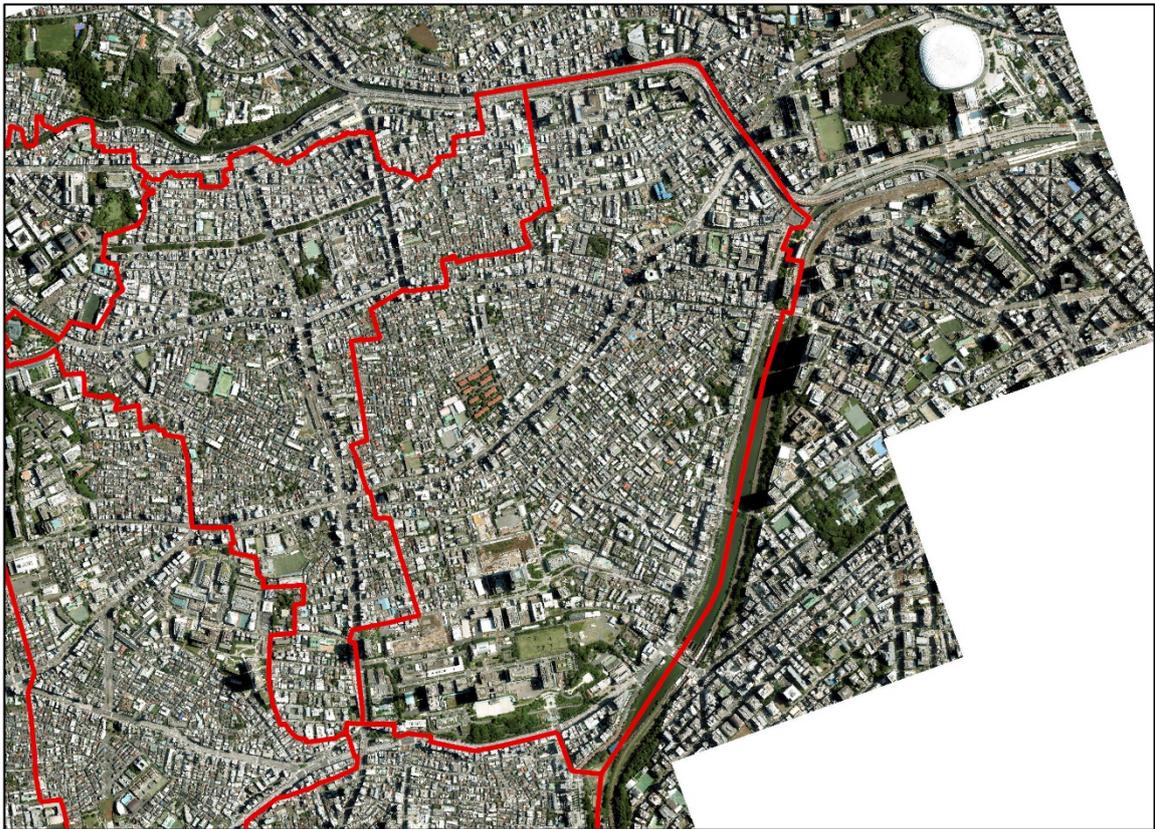
全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	522	480	△ 42
	m ²	13,954	19,190	5,235

壁面緑化<3m²以上>

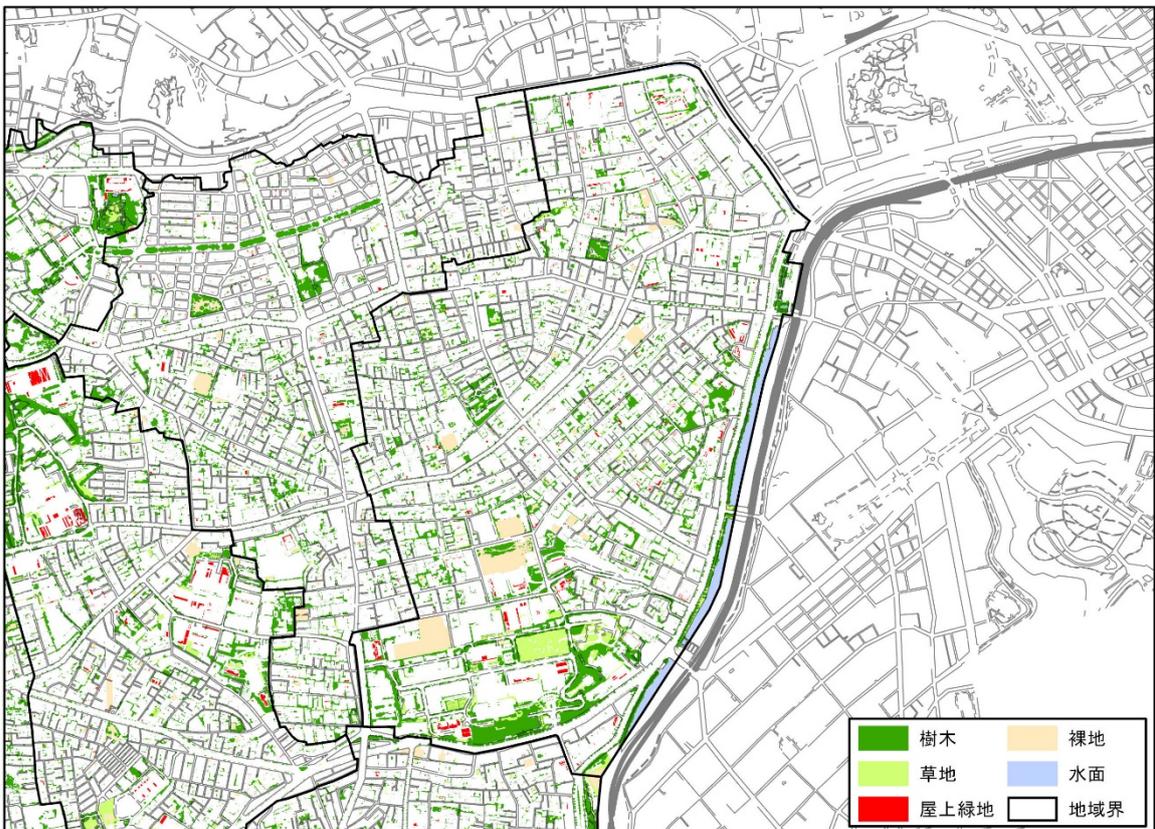
全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	76	82	6
	m ²	2,517	2,773	256

*区全体を100としたときの各数値の桁数は、本文の集計値の桁数にあわせている。

*各集計表は四捨五入による端数処理をしているため表中の集計値が合わない場合がある。



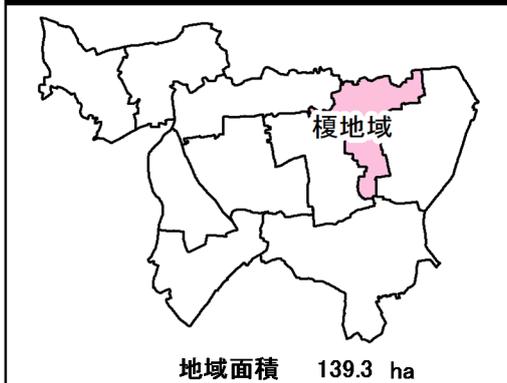
0 0.3 0.6 1.2 km



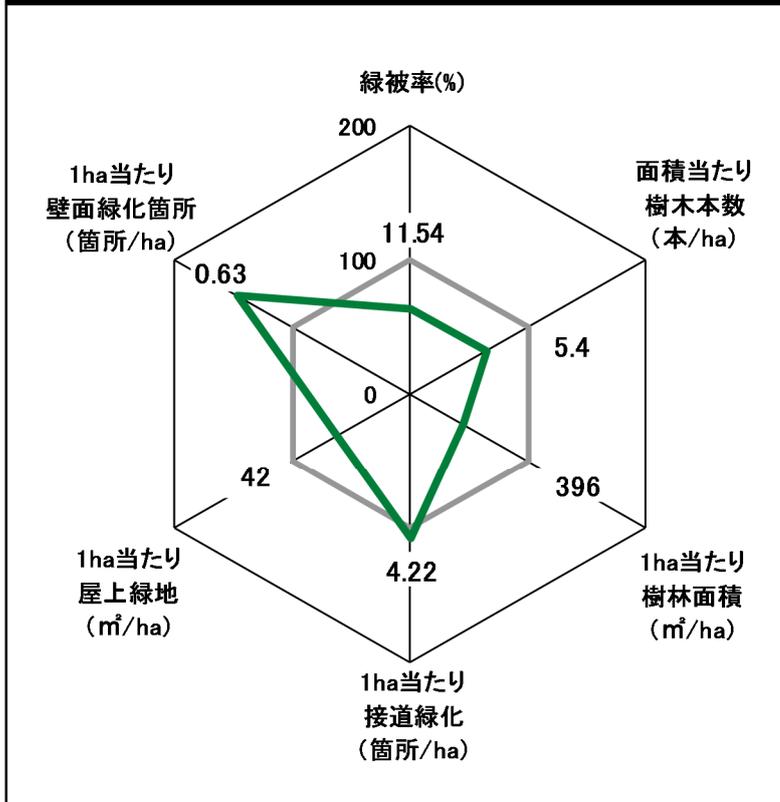
0 0.3 0.6 1.2 km

榎 地 域

位置図



区全体を100としたときの各数値



都市公園等の整備状況

名称	箇所	面積(m²)
国民公園等	0	0
都立公園	0	0
区立公園等	公園等	7
	児童遊園	5
	遊び場	0
	小計	12
他区立公園	0	0
合計	12	14,299

緑被

項目	単位	H27	R2	変化
樹木・樹林	ha	13.78	14.65	0.88
草地	ha	0.99	0.85	△ 0.15
屋上緑地	ha	0.51	0.59	0.08
緑被地	ha	15.28	16.09	0.81
緑被率	%	10.98	11.54	0.57

樹木<幹回り95cm以上(樹幹直径30cm以上)>

全体	単位	H27	R2	変化
	本数	671	748	77
太さ別	単位	160cm以上(直径50cm以上)	125~160cm未満(直径40~50cm)	125cm未満(直径40cm未満)
	本数	275	204	269
樹種別	単位	第1位 サクラ	第2位 ケヤキ	第3位 イチョウ
	本数	137	107	80

樹林地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	128	123	△ 5
	m²	53,478	55,126	1,648

草地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	m²	3,978	3,722	△ 256

接道緑化<5m以上>

生垣	単位	H27	R2	変化
	m	1,614	2,003	389
植込み	単位	H27	R2	変化
	m	5,057	5,816	759

屋上緑地<1m²以上>

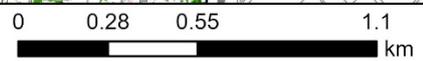
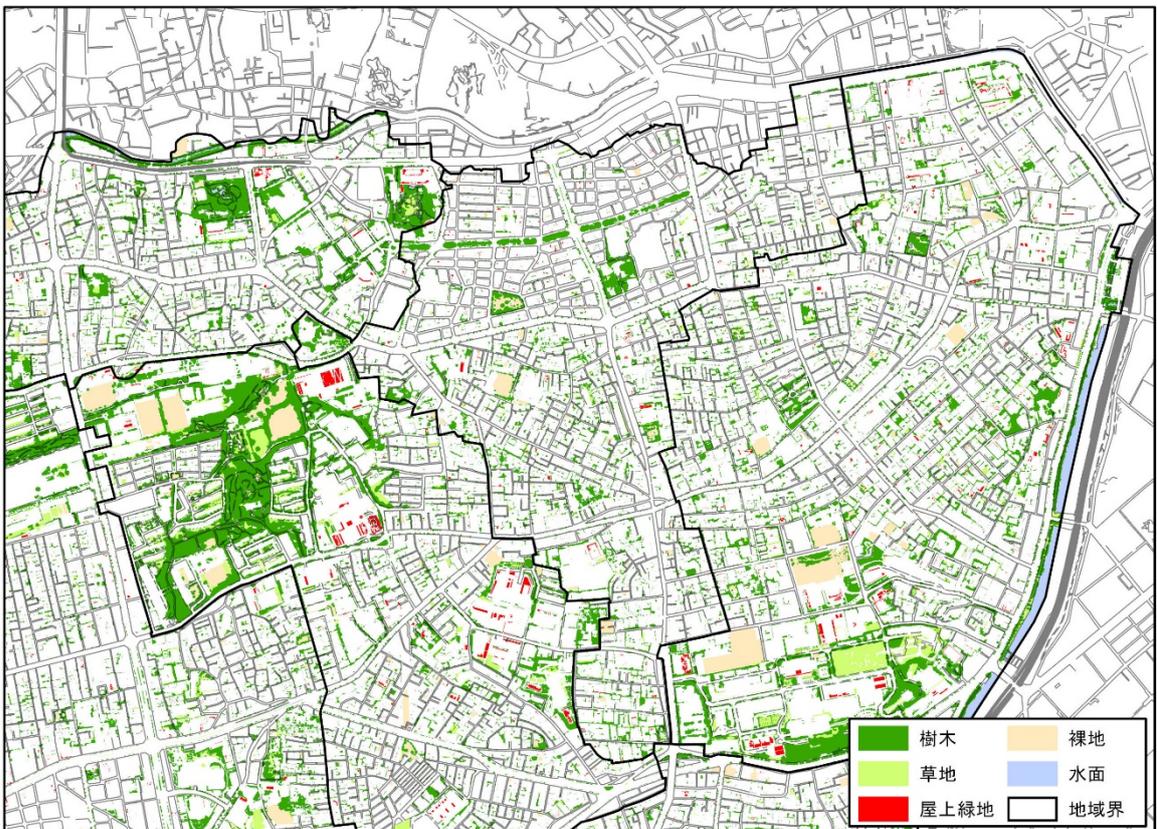
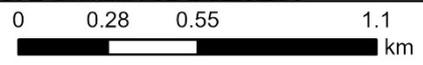
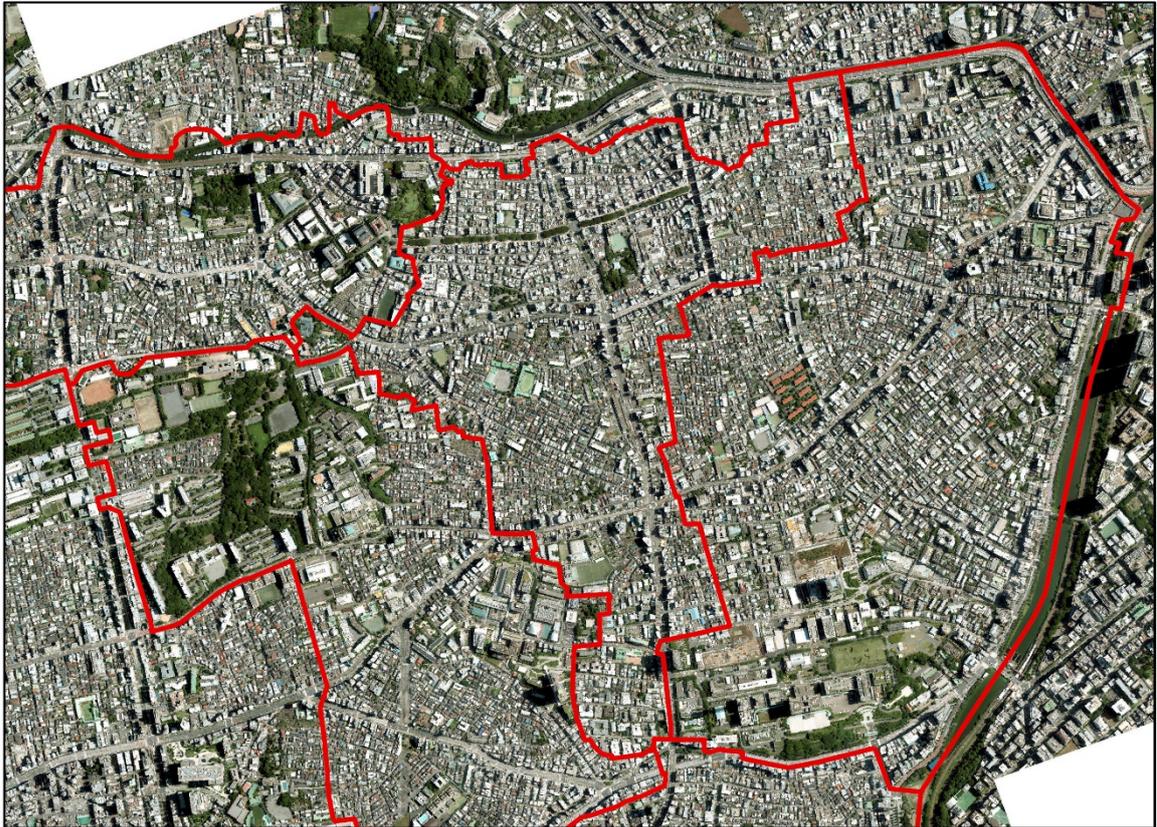
全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	493	402	△ 91
	m²	5,106	5,833	726

壁面緑化<3m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	92	88	△ 4
	m²	1,416	1,355	△ 61

*区全体を100としたときの各数値の桁数は、本文の集計値の桁数にあわせている。

*各集計表は四捨五入による端数処理をしているため表中の集計値が合わない場合がある。



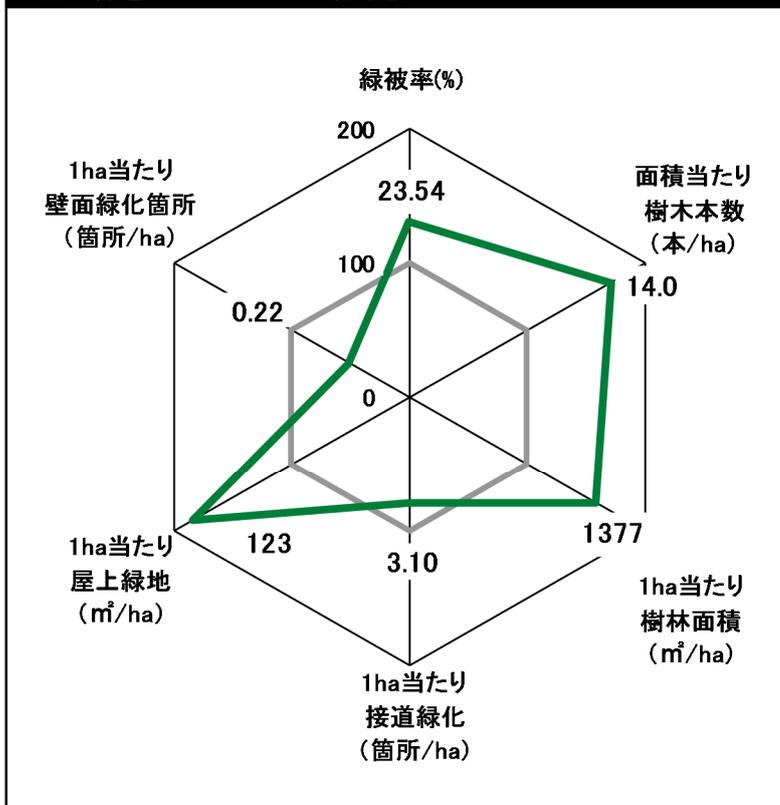
- | | |
|--|--|
| 樹木 | 裸地 |
| 草地 | 水面 |
| 屋上緑地 | 地域界 |

若松地域

位置図



区全体を100としたときの各数値



都市公園等の整備状況

名称	箇所	面積(m²)
国民公園等	0	0
都立公園	1	109,314
区立公園等	公園等	4,7073
	児童遊園	8,4528
	遊び場	0,0
	小計	12,11,601
他区立公園	0	0
合計	13	120,915

緑被

項目	単位	H27	R2	変化
樹木・樹林	ha	32.00	31.38	△ 0.62
草地	ha	2.76	3.79	1.02
屋上緑地	ha	1.25	1.93	0.68
緑被地	ha	36.02	37.10	1.08
緑被率	%	23.12	23.54	0.41

樹木<幹回り95cm以上(樹幹直径30cm以上)>

全体	単位	H27	R2	変化
	本数	2,286	2,210	△ 76
太さ別	単位	160cm以上(直径50cm以上)	125~160cm未満(直径40~50cm)	125cm未満(直径40cm未満)
	本数	949	696	565
樹種別	単位	第1位 サクラ	第2位 ケヤキ	第3位 イチョウ
	本数	525	348	152

樹林地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	166	160	△ 6
	m²	226,100	217,008	△ 9,092

接道緑化<5m以上>

生垣	単位	H27	R2	変化
	m	1,327	1,606	278
植込み	単位	H27	R2	変化
	m	6,531	7,234	703

草地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	m²	23,098	34,621	11,523

屋上緑地<1m²以上>

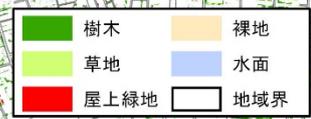
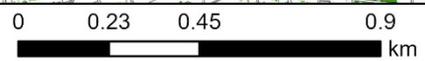
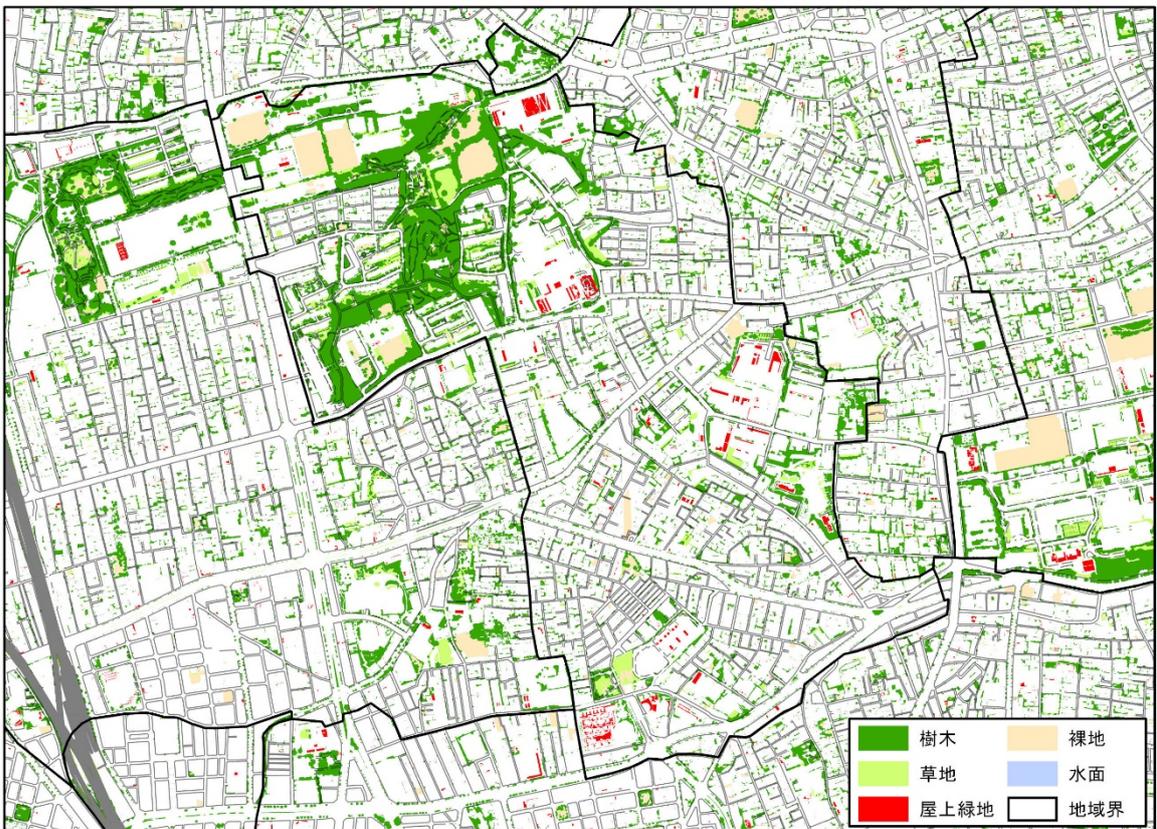
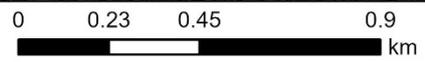
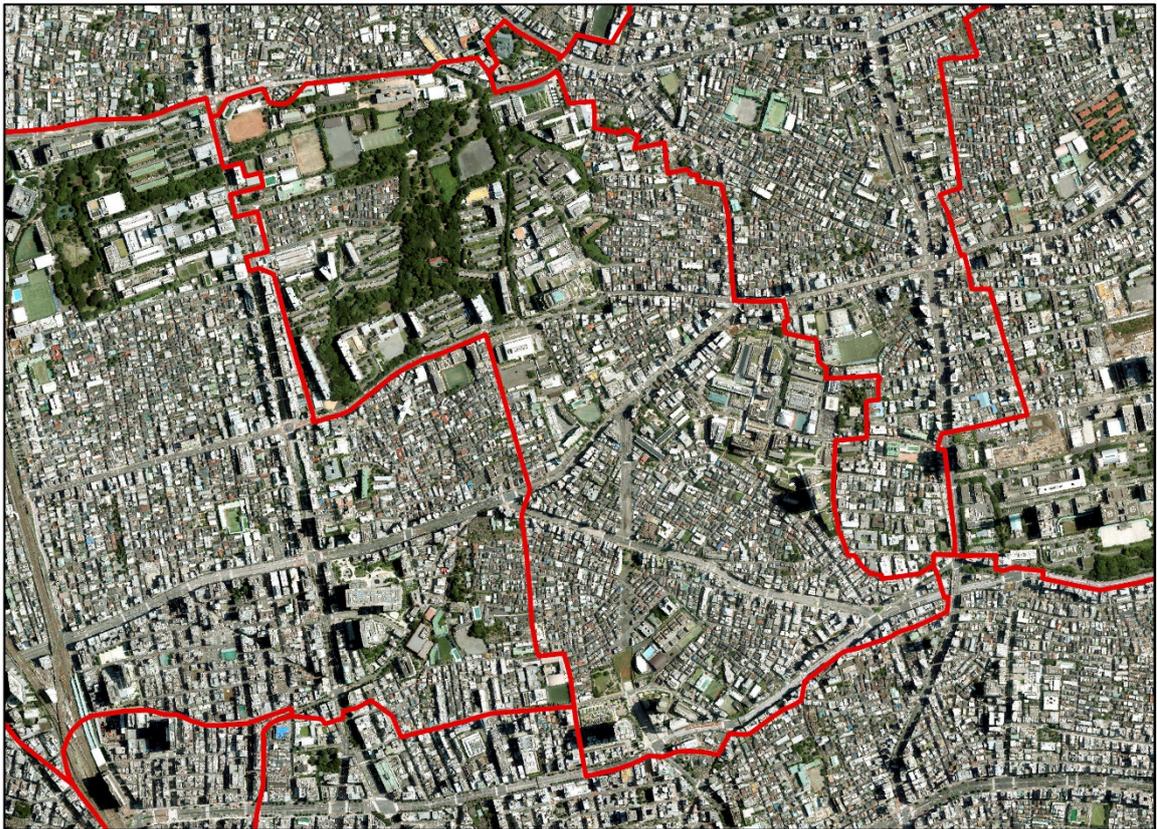
全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	151	219	68
	m²	12,543	19,372	6,829

壁面緑化<3m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	53	35	△ 18
	m²	1,806	1,690	△ 116

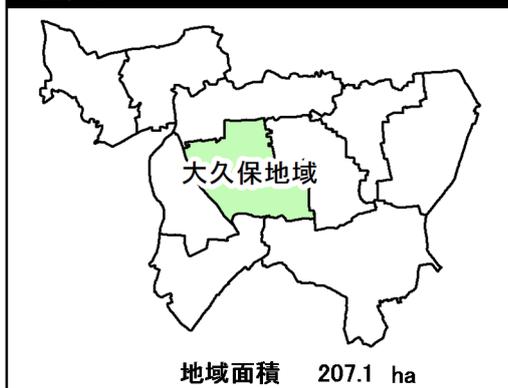
*区全体を100としたときの各数値の桁数は、本文の集計値の桁数にあわせている。

*各集計表は四捨五入による端数処理をしているため表中の集計値が合わない場合がある。

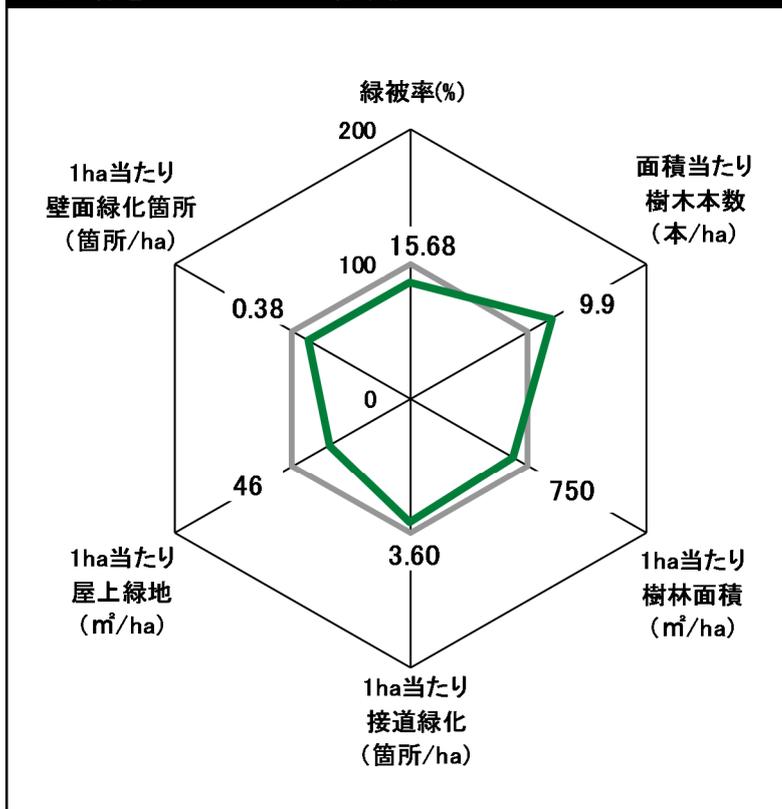


大久保地域

位置図



区全体を100としたときの各数値



都市公園等の整備状況

名称	箇所	面積(m ²)
国民公園等	0	0
都立公園	1	77,158
区立公園等	公園等	29
	児童遊園	5
	遊び場	0
	小計	34
他区立公園	0	0
合計	35	102,943

緑被

項目	単位	H27	R2	変化
樹木・樹林	ha	28.24	27.69	△ 0.55
草地	ha	2.37	3.83	1.46
屋上緑地	ha	0.62	0.96	0.34
緑被地	ha	31.23	32.48	1.25
緑被率	%	15.13	15.68	0.56

樹木<幹回り95cm以上(樹幹直径30cm以上)>

全体	単位	H27	R2	変化
	本数	1,896	2,043	147
太さ別	単位	160cm以上(直径50cm以上)	125~160cm未満(直径40~50cm)	125cm未満(直径40cm未満)
	本数	718	571	754
樹種別	単位	第1位 ケヤキ	第2位 サクラ	第3位 イチョウ
	本数	394	325	241

樹林地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	169	156	△ 13
	m ²	161,577	155,383	△ 6,194

草地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	m ²	17,561	31,864	14,303

接道緑化<5m以上>

生垣	単位	H27	R2	変化
	m	2,780	3,427	647
植込み	単位	H27	R2	変化
	m	8,996	10,050	1,054

屋上緑地<1m²以上>

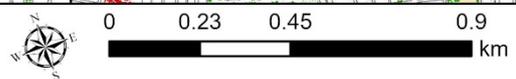
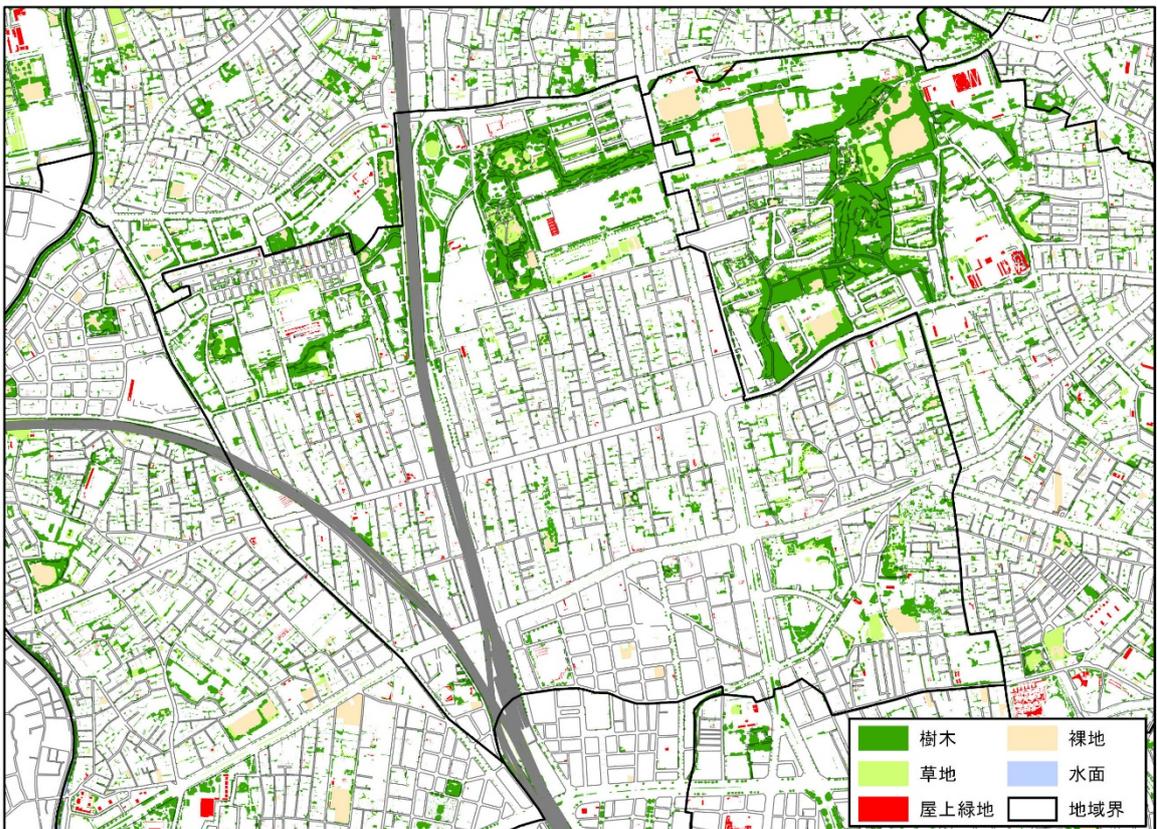
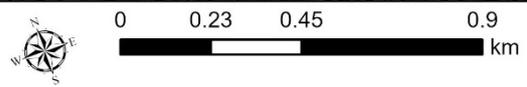
全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	271	358	87
	m ²	6,250	9,575	3,325

壁面緑化<3m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	102	78	△ 24
	m ²	2,663	1,974	△ 689

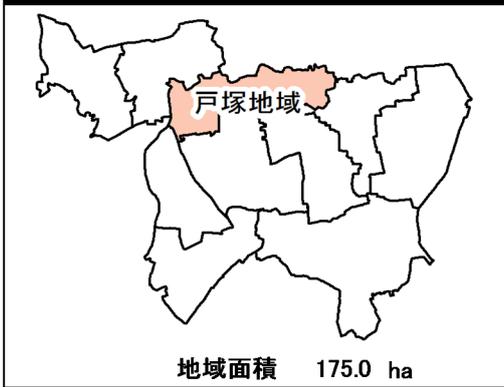
*区全体を100としたときの各数値の桁数は、本文の集計値の桁数にあわせている。

*各集計表は四捨五入による端数処理をしているため表中の集計値が合わない場合がある。



戸塚地域

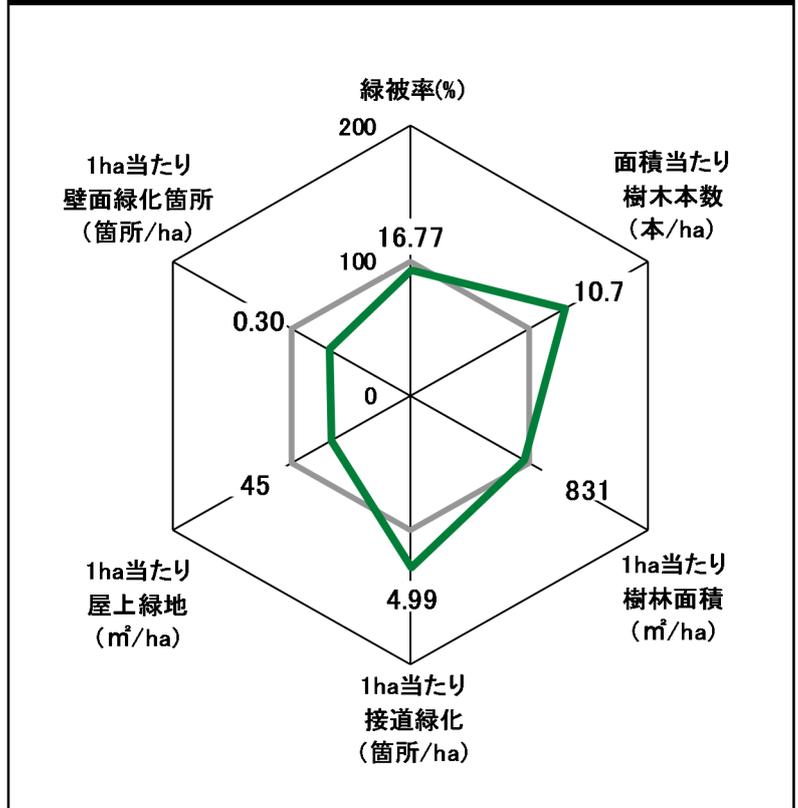
位置図



都市公園等の整備状況

名称	箇所	面積(m ²)
国民公園等	0	0
都立公園	0	0
区立公園等	公園等	45,139
	児童遊園	2,795
	遊び場	0
	小計	47,934
他区立公園	0	0
合計	19	47,934

区全体を100としたときの各数値



緑被

項目	単位	H27	R2	変化
樹木・樹林	ha	27.81	26.40	△ 1.41
草地	ha	1.98	2.17	0.19
屋上緑地	ha	0.67	0.79	0.12
緑被地	ha	30.45	29.35	△ 1.10
緑被率	%	17.34	16.77	△ 0.56

樹林地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
全体	箇所	207	199	△ 8
	m ²	153,889	145,497	△ 8,392

草地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
全体	m ²	12,841	15,548	2,707

屋上緑地<1m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
全体	箇所	271	278	7
	m ²	6,655	7,885	1,229

樹木<幹回り95cm以上(樹幹直径30cm以上)>

全体	単位	H27	R2	変化
全体	本数	1,811	1,873	62
	太さ別	160cm以上 (直径50cm以上)	125~160cm 未満(直径40~50cm)	125cm未満 (直径40cm未満)
樹種別	本数	710	613	550
	単位	第1位 スダジイ	第2位 イチョウ	第3位 サクラ・ケヤキ
樹種別	本数	329	296	257

接道緑化<5m以上>

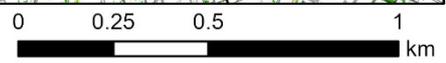
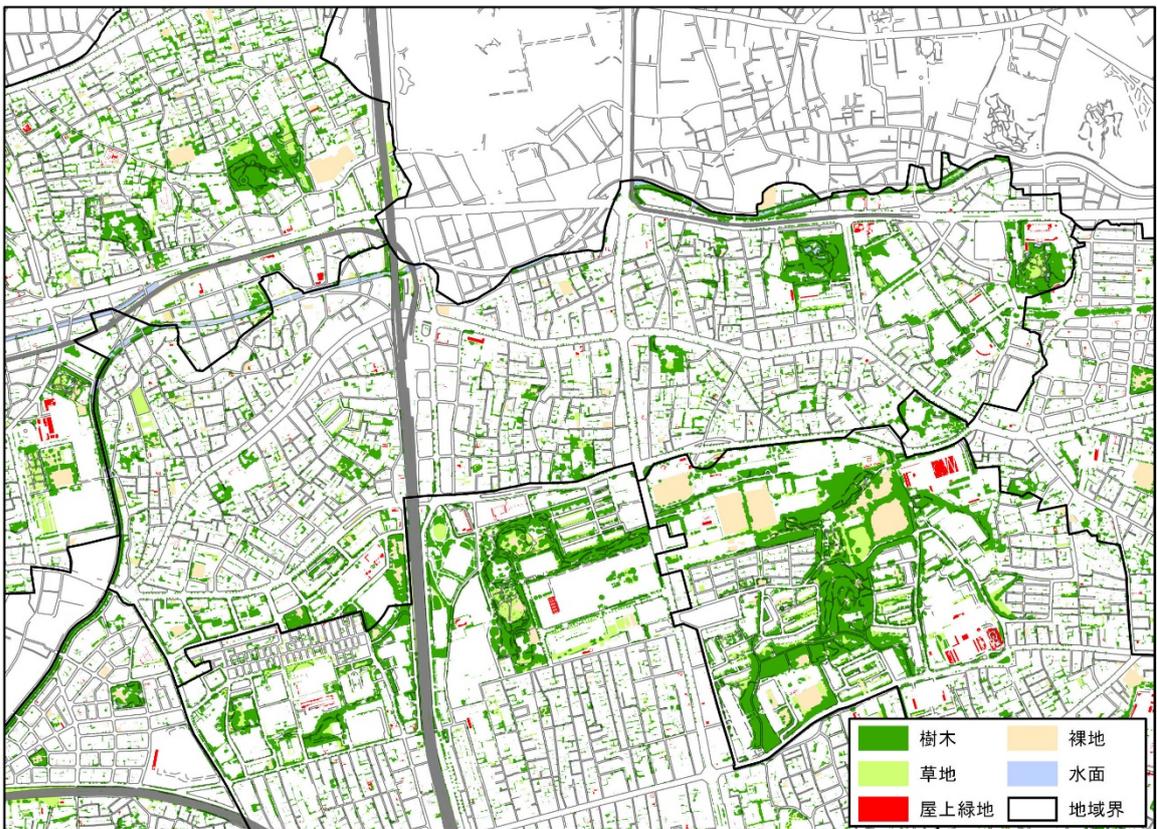
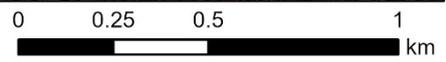
生垣	単位	H27	R2	変化
生垣	m	3,313	4,330	1,017
	植込み	単位	H27	R2
植込み	m	8,200	9,125	925

壁面緑化<3m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
全体	箇所	76	52	△ 24
	m ²	2,985	2,333	△ 652

*区全体を100としたときの各数値の桁数は、本文の集計値の桁数にあわせている。

*各集計表は四捨五入による端数処理をしているため表中の集計値が合わない場合がある。

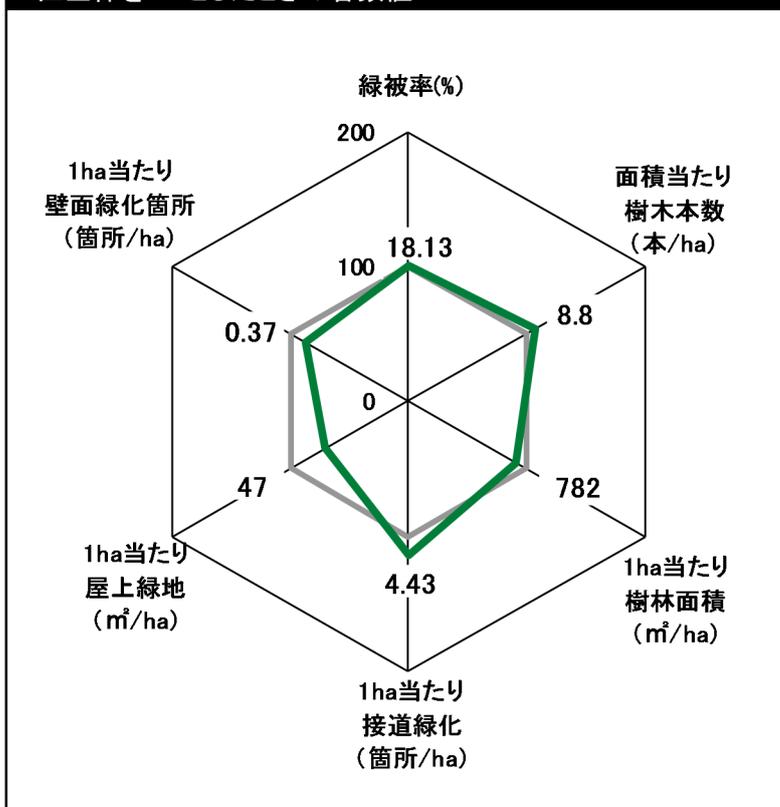


落合第一地域

位置図



区全体を100としたときの各数値



都市公園等の整備状況

名称	箇所	面積(m ²)
国民公園等	0	0
都立公園	0	0
区立公園等	公園等	59,888
	児童遊園	829
	遊び場	667
	小計	61,385
他区立公園	0	0
合計	18	61,385

緑被

項目	単位	H27	R2	変化
樹木・樹林	ha	27.50	24.23	△ 3.27
草地	ha	2.73	3.72	1.00
屋上緑地	ha	0.61	0.74	0.13
緑被地	ha	30.84	28.69	△ 2.15
緑被率	%	19.43	18.13	△ 1.30

樹木<幹回り95cm以上(樹幹直径30cm以上)>

全体	単位	H27	R2	変化
	本数	1,575	1,390	△ 185
太さ別	単位	160cm以上 (直径50cm以上)	125~160cm 未満(直径40~50cm)	125cm未満 (直径40cm未満)
	本数	423	467	500
樹種別	単位	第1位 サクラ	第2位 スタジイ	第3位 ケヤキ
	本数	276	229	177

樹林地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	262	228	△ 34
	m ²	154,147	123,862	△ 30,284

接道緑化<5m以上>

生垣	単位	H27	R2	変化
	m	3,676	3,799	123
植込み	単位	H27	R2	変化
	m	6,001	6,688	687

草地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	m ²	20,754	26,329	5,575

屋上緑地<1m²以上>

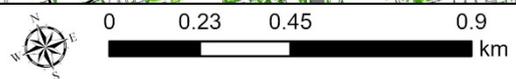
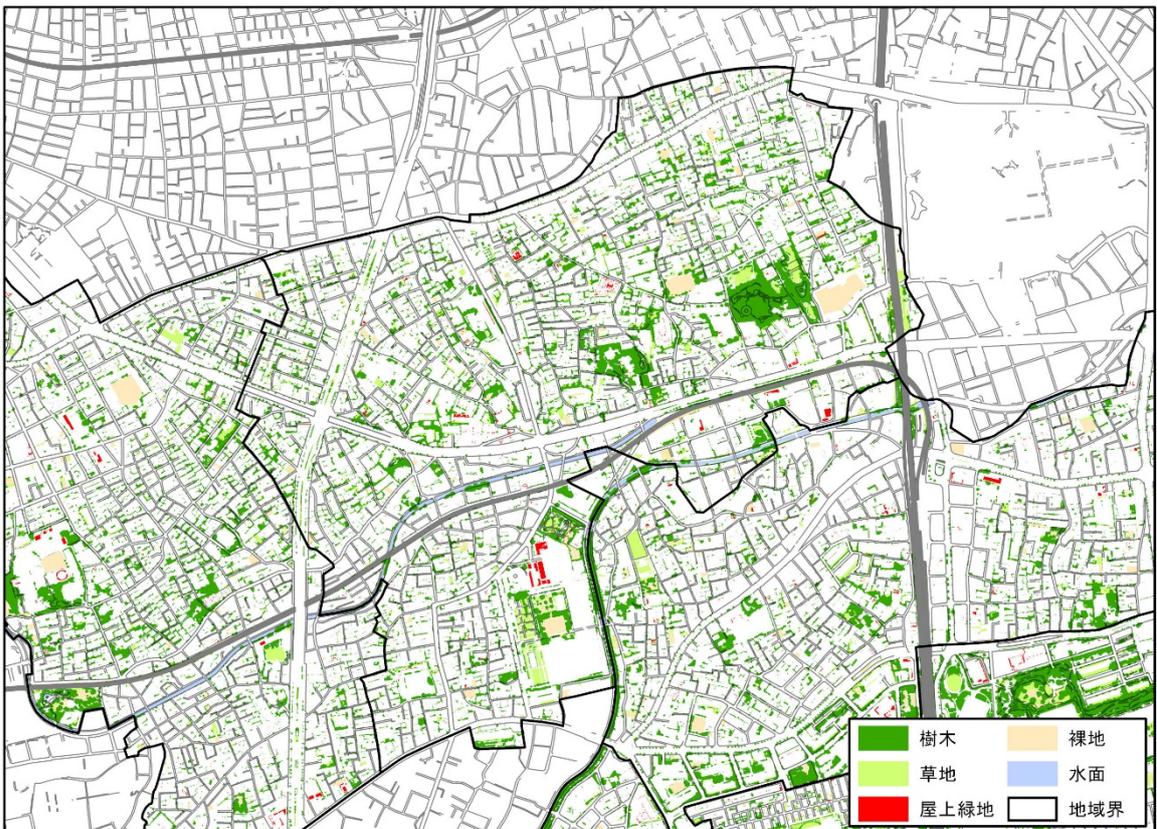
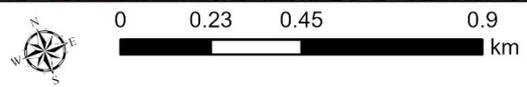
全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	211	267	56
	m ²	6,045	7,411	1,366

壁面緑化<3m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	80	59	△ 21
	m ²	2,669	1,455	△ 1,214

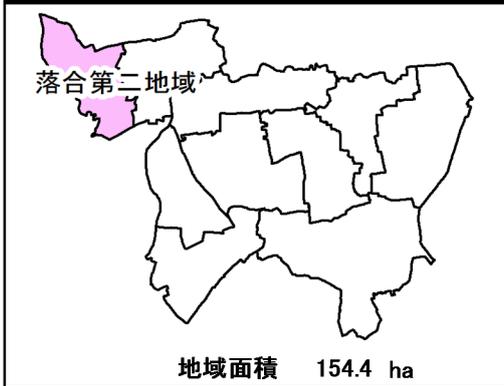
*区全体を100としたときの各数値の桁数は、本文の集計値の桁数にあわせている。

*各集計表は四捨五入による端数処理をしているため表中の集計値が合わない場合がある。

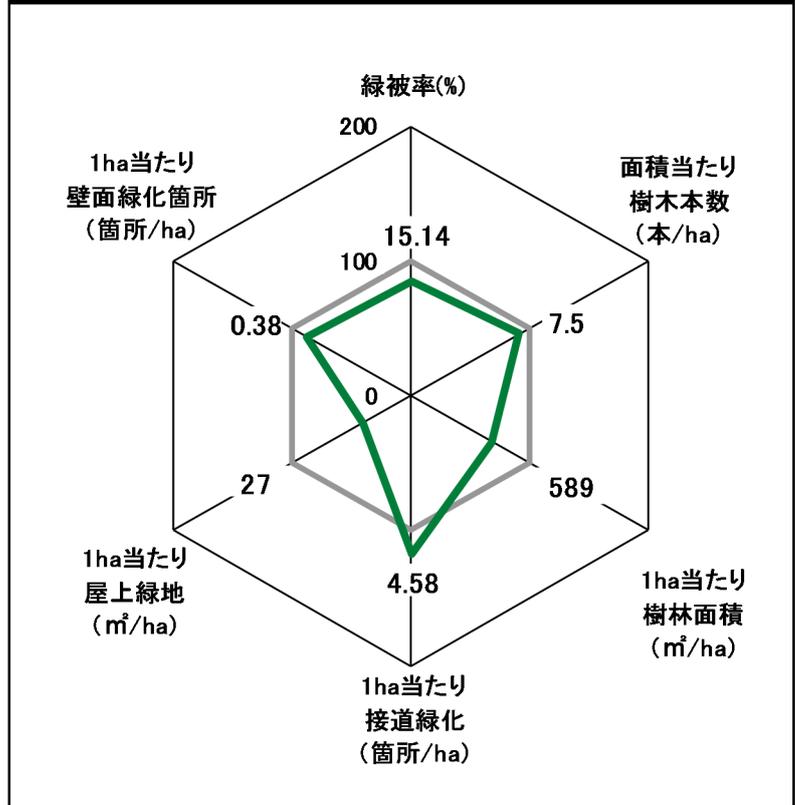


落合第二地域

位置図



区全体を100としたときの各数値



都市公園等の整備状況

名称	箇所	面積(m ²)
国民公園等	0	0
都立公園	0	0
区立公園等	公園等	10 31,565
	児童遊園	5 1,254
	遊び場	1 233
	小計	16 33,052
他区立公園	1	3,687
合計	17	36,739

緑被

項目	単位	H27	R2	変化
樹木・樹林	ha	21.09	20.51	△ 0.58
草地	ha	1.57	2.46	0.88
屋上緑地	ha	0.40	0.41	0.02
緑被地	ha	23.06	23.38	0.32
緑被率	%	14.91	15.14	0.23

樹木<幹回り95cm以上(樹幹直径30cm以上)>

全体	単位	H27	R2	変化
	本数	1,304	1,161	△ 143
太さ別	単位	160cm以上 (直径50cm以上)	125~160cm 未満(直径40~50cm)	125cm未満 (直径40cm未満)
	本数	396	355	410
樹種別	単位	第1位 スダジイ	第2位 サクラ	第3位 ケヤキ
	本数	227	196	144

樹林地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	206	178	△ 28
	m ²	102,576	90,997	△ 11,578

接道緑化<5m以上>

生垣	単位	H27	R2	変化
	m	4,191	4,210	19
植込み	単位	H27	R2	変化
	m	4,817	5,097	280

草地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	m ²	7,664	14,637	6,974

屋上緑地<1m²以上>

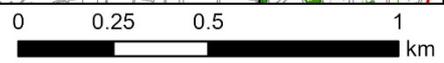
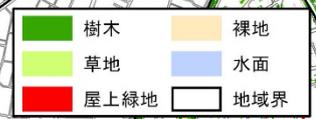
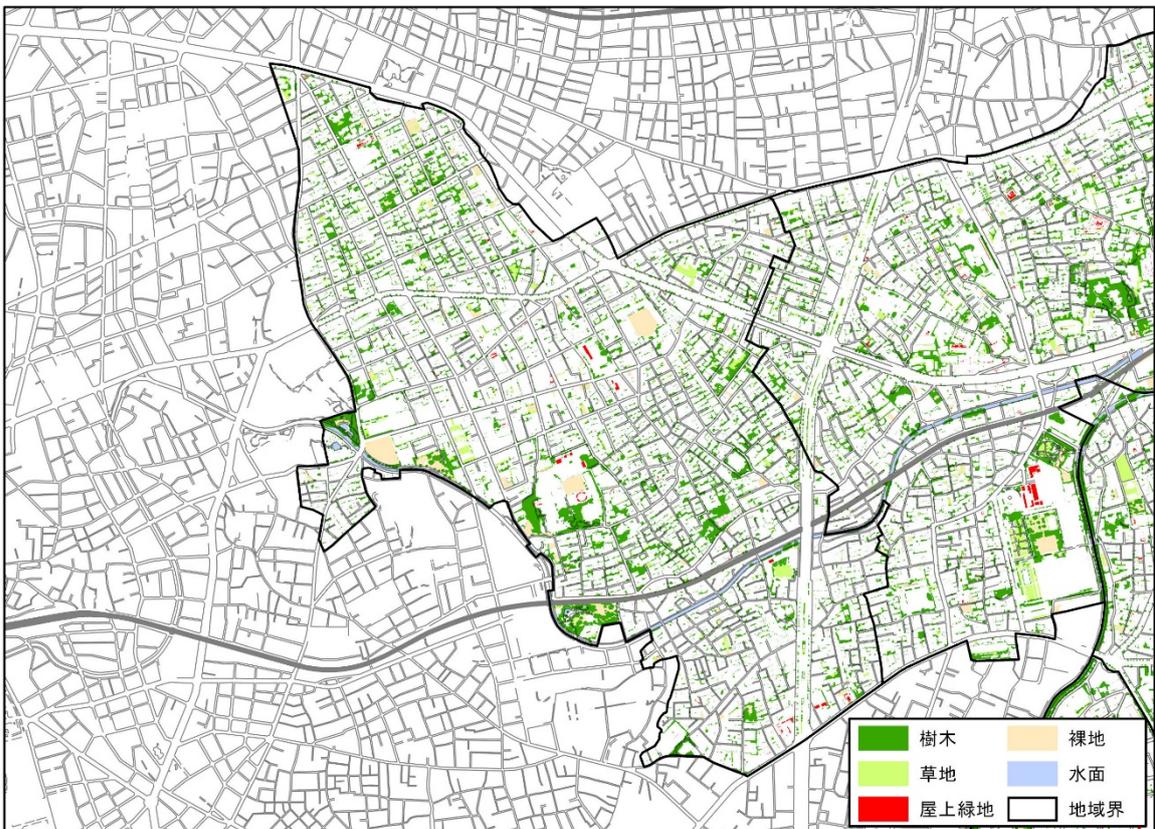
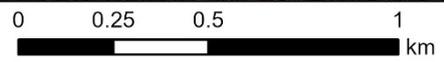
全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	185	189	4
	m ²	3,956	4,113	157

壁面緑化<3m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	103	59	△ 44
	m ²	2,312	1,318	△ 994

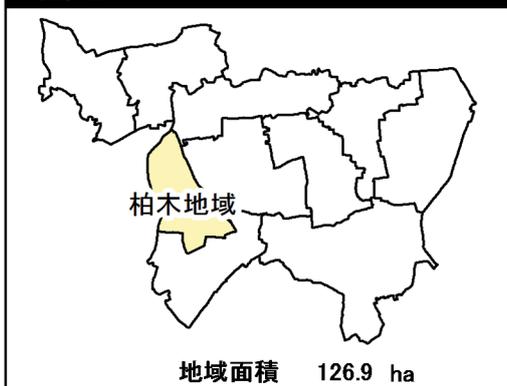
*区全体を100としたときの各数値の桁数は、本文の集計値の桁数にあわせている。

*各集計表は四捨五入による端数処理をしているため表中の集計値が合わない場合がある。

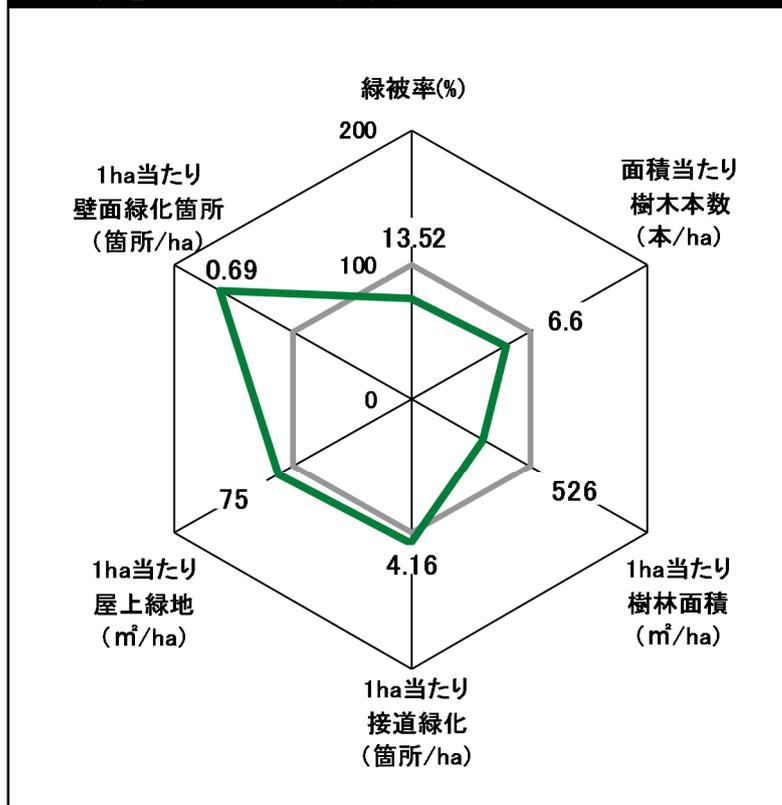


柏木地域

位置図



区全体を100としたときの各数値



都市公園等の整備状況

名称	箇所	面積(m ²)
国民公園等	0	0
都立公園	0	0
区立公園等	公園等	19,409
	児童遊園	1,086
	遊び場	0
	小計	20,495
他区立公園	0	0
合計	13	20,495

緑被

項目	単位	H27	R2	変化
樹木・樹林	ha	13.70	14.70	1.00
草地	ha	1.35	1.51	0.16
屋上緑地	ha	0.64	0.94	0.30
緑被地	ha	15.68	17.16	1.47
緑被率	%	12.33	13.52	1.19

樹木<幹回り95cm以上(樹幹直径30cm以上)>

全体	単位	H27	R2	変化
	本数	746	832	86
太さ別	単位	160cm以上(直径50cm以上)	125~160cm未満(直径40~50cm)	125cm未満(直径40cm未満)
	本数	272	277	283
樹種別	単位	第1位 サクラ	第2位 ケヤキ	第3位 イチョウ
	本数	272	118	89

樹林地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	113	106	△ 7
	m ²	66,653	66,737	84

接道緑化<5m以上>

生垣	単位	H27	R2	変化
	m	1,373	2,078	705
植込み	単位	H27	R2	変化
	m	7,439	7,709	270

草地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	m ²	8,207	10,918	2,711

屋上緑地<1m²以上>

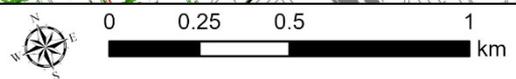
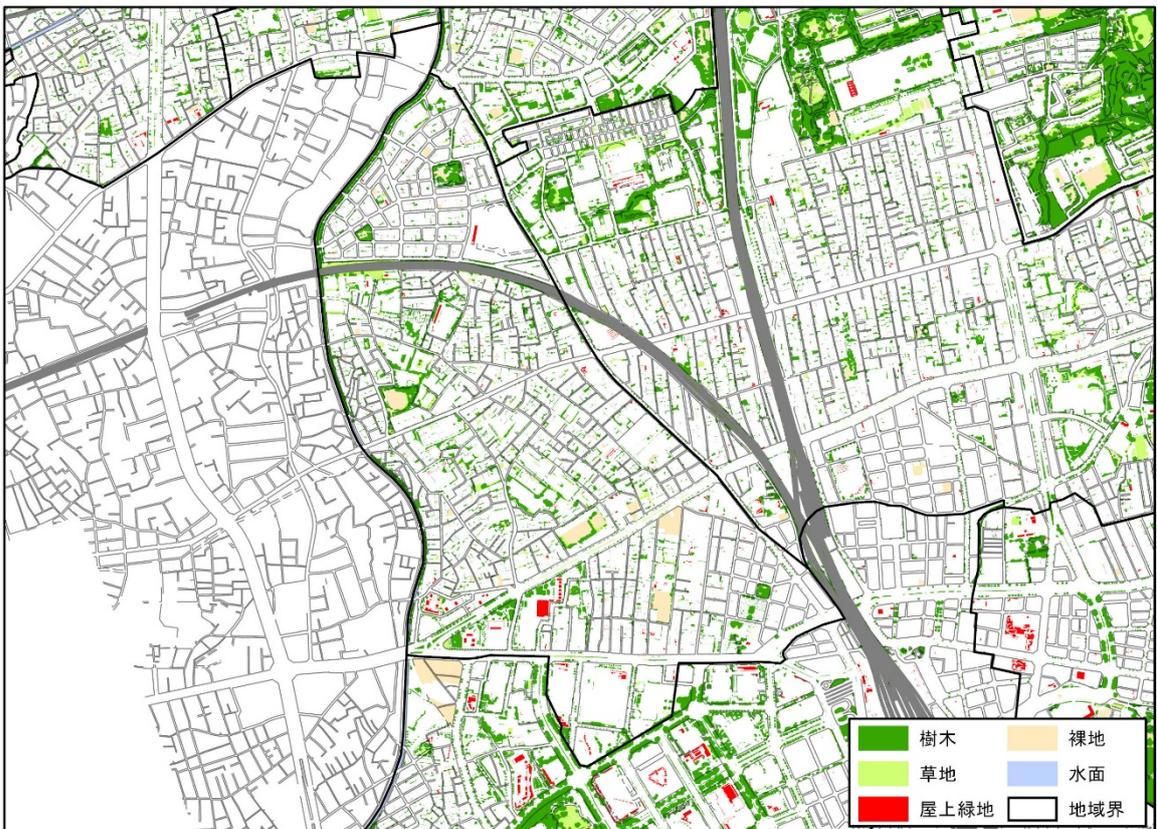
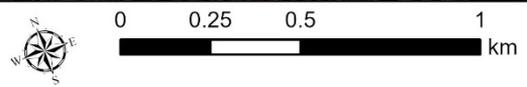
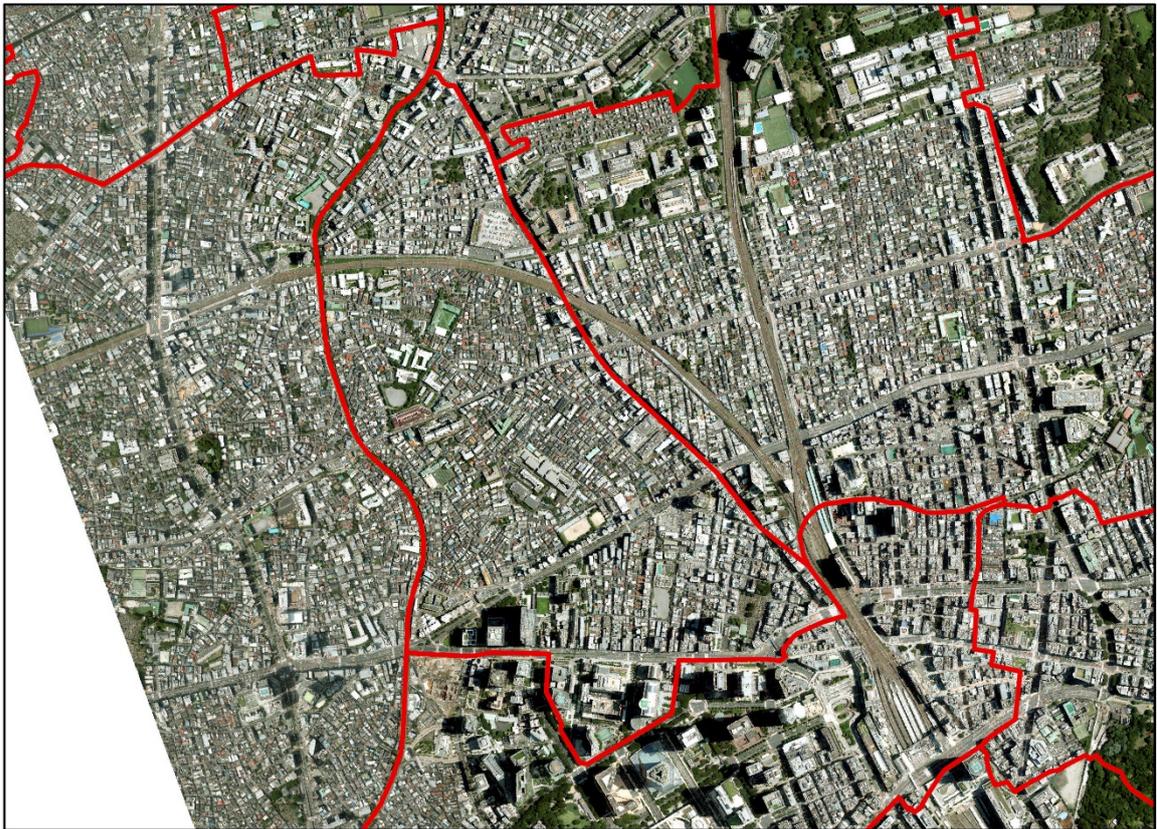
全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	204	252	48
	m ²	6,357	9,514	3,157

壁面緑化<3m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
	箇所	118	88	△ 30
	m ²	6,297	5,705	△ 592

*区全体を100としたときの各数値の桁数は、本文の集計値の桁数にあわせている。

*各集計表は四捨五入による端数処理をしているため表中の集計値が合わない場合がある。

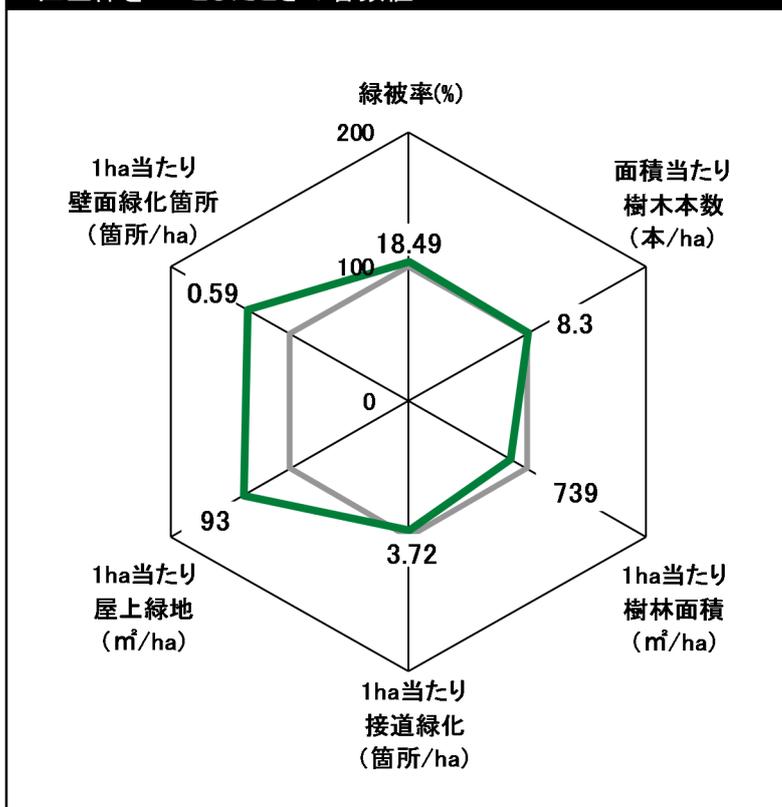


新宿駅周辺地域

位置図



区全体を100としたときの各数値



都市公園等の整備状況

名称	箇所	面積(m ²)
国民公園等	0	0
都立公園	0	0
区立公園等	公園等	89,561
	児童遊園	2,505
	遊び場	0
	小計	92,066
他区立公園	0	0
合計	8	92,066

緑被

項目	単位	H27	R2	変化
樹木・樹林	ha	24.43	26.79	2.36
草地	ha	2.73	1.63	△ 1.10
屋上緑地	ha	1.33	1.52	0.19
緑被地	ha	28.50	29.95	1.45
緑被率	%	17.55	18.49	0.94

樹林地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
全体	箇所	76	78	2
	m ²	122,548	119,703	△ 2,845

草地<100m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
全体	m ²	23,040	13,683	△ 9,357

屋上緑地<1m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
全体	箇所	138	174	36
	m ²	13,270	15,105	1,835

樹木<幹回り95cm以上(樹幹直径30cm以上)>

全体	単位	H27	R2	変化
全体	本数	1,314	1,338	24
	太さ別	160cm以上(直径50cm以上)	125~160cm未満(直径40~50cm)	125cm未満(直径40cm未満)
樹種別	本数	475	414	449
	本数	第1位 ケヤキ	第2位 クスノキ	第3位 サクラ
樹種別	本数	454	321	147

接道緑化<5m以上>

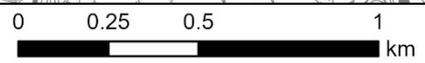
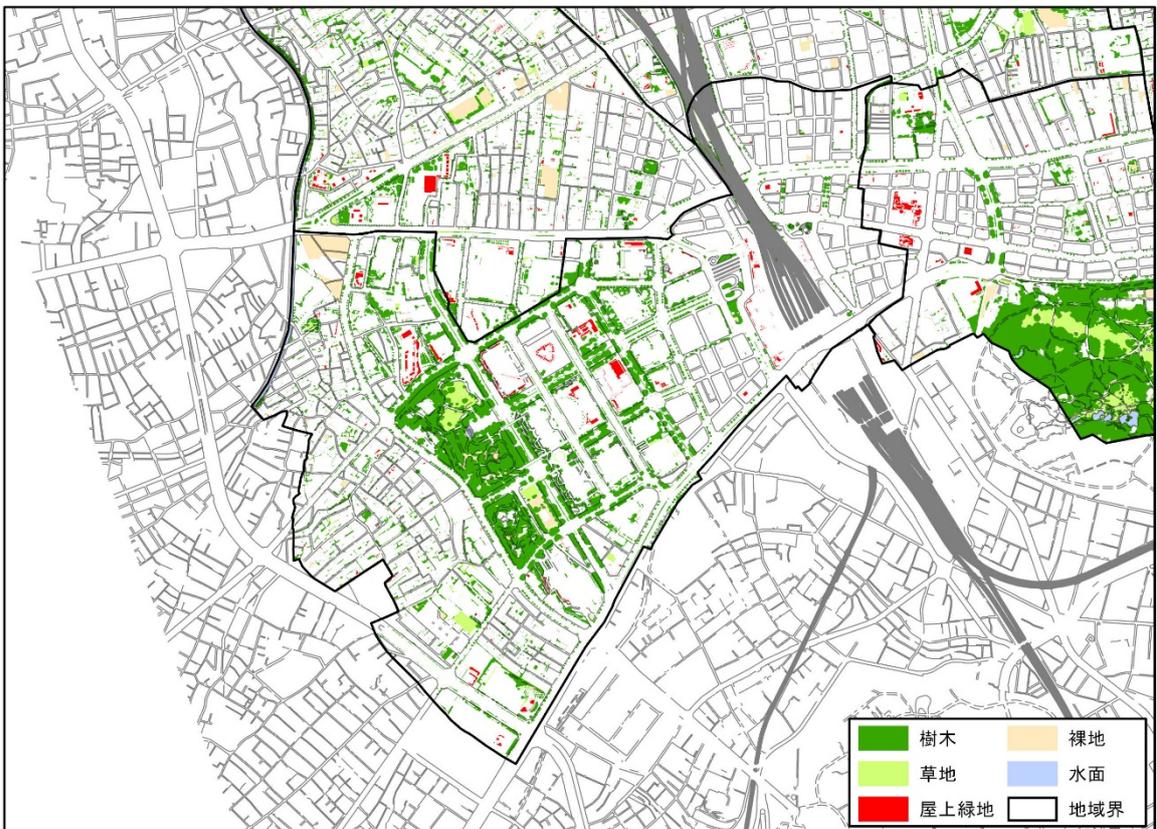
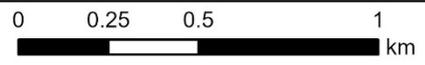
生垣	単位	H27	R2	変化
生垣	m	1,099	1,270	171
	植込み	単位	H27	R2
植込み	m	9,687	9,792	105

壁面緑化<3m²以上>

全体	単位	H27	R2	変化
全体	箇所	100	95	△ 5
	m ²	4,239	4,049	△ 190

*区全体を100としたときの各数値の桁数は、本文の集計値の桁数にあわせている。

*各集計表は四捨五入による端数処理をしているため表中の集計値が合わない場合がある。



1-4 用途地域、土地用途別緑被地について

用途地域別の緑被地では、第一種低層住居専用地域と第一種中高層住居専用地域の緑被率が減少し、それ以外の用途地域では増加であった。緑被地が減少した用途地域は、大規模な建築物が建てられない地域であり、比較的緑被率が高い地域となっている。そのため、建築物の建替え等により既存の樹木が伐採され、緑被地面積が減少したと考えられる。緑被地が増加した用途地域では、大規模な建築が可能であり、そのような建築計画での緑地整備が緑被地面積の増加の主な要因となっている。

土地用途別の緑被地の推移では、個人住宅において緑被地の減少が大きくなっている。個人住宅の建替えに伴う緑被地の減少が主な要因であるが、建替えによる敷地の細分化や大規模集合住宅化等により、建替え前の緑被地面積が確保されず、緑被地面積は減少となったと考えられる。一方、集合住宅の緑被地面積は増加している。近年、区内では大規模なマンション開発が実施されており、新たな緑地の整備及び以前に整備された緑地内の樹木の生長が、緑被地面積の増加要因となっている。

商業地は、住宅地や公共用地と比較すると緑被率は低いですが、緑被地面積、緑被率ともに増加している。国立競技場（商業地として区分）の完成の影響が大きいですが、商業系の開発事業によっても緑地が整備されており、新たに整備された緑地の樹木の生長によって、今後も緑被地面積の増加が期待される。

学校、公共施設の緑被地面積、緑被率は増加している。学校では施設の建替えによって樹木が減少した事例もあるが、新たに屋上緑地が整備されるなど、緑被地全体としては増加している。区立学校では校庭芝生化によって緑被地面積が増加している箇所もあり、緑被率も20%を超えている。また、区内には防衛省や都庁など国や都の施設が多く、緑被率が高いものが多い。防衛省等の立ち入りが厳しい施設もあるが、まとまりのあるみどりとして重要な要素である。

寺社境内の緑被地も増加している。樹木調査においても寺社境内の樹木は427本増加しており、変化率は最も高い。寺社境内の樹木には巨木も多く、幸國寺のイチョウは特別保護樹木に指定されている。寺社境内は区内の各地域に分布しており、地域のみどりの拠点となる社寺林、地域のシンボルである樹木も多い。

2. 新宿区のみどりの課題

2-1 緑化誘導施策について

令和2年度（第9次）調査では、大規模な開発事業等で緑被地をはじめ、樹木や接道緑化の増加が確認できた一方で、個人住宅での樹木や樹林の減少が顕著であった。

一定規模以上の建築計画では、緑化計画書制度により緑地整備を義務付けている。平成27年度から令和元年度の5年間の緑化計画書指導実績では、1年間の完了件数は約100件程度である。5年間の緑化計画書指導実績による接道部緑化延長は16,488m、地上部緑化面積は113,956㎡（新規63,289㎡、既存50,667㎡）、建築物上緑化面積は25,375㎡であった。本調査の5年間の変化では、接道緑化が12,426m、緑被面積が9.02ha、屋上緑地面積が31,518㎡増加している。増加した緑地には、緑化計画書指導によって整備された緑地も多いと考えられる。緑化計画書制度は、建築計画にあわせて緑化を誘導する重要な制度であり、引き続き制度を活用して緑化環境の充実を図る必要がある。

大規模な開発事業では、整備を義務付ける緑地の割合も多く、開発に伴い地域のみどりの拠点となるような緑地が新たに生み出されている。民間企業の社会貢献事業として緑地が整備された事例や、整備された緑地がにぎわいの拠点になっている事例もあり、行政と事業者の連携によって、みどりが増えていると評価できる。開発事業は新たな緑地を創出する重要な機会であり、今後も事業者と連携し、良好な緑地の整備と維持管理に努める必要がある。

一方、個人住宅の緑被地等は減少しており、特に個人住宅としては比較的規模の大きい敷地において、建替えや細分化によって樹林が消失している。接道部の緑化や既存樹木の保全等を誘導する新たな制度の検討が必要である。

本調査では小規模民間緑被地の変化分析を行っており、緑化計画書制度の対象とならない250㎡未満の敷地のうち、庭木を有していた場合は、建替え時に更地化されることが多く、既存のみどりが残らない事例が多いことがうかがえた。また、小規模な住宅や事業所等の敷地では、緑化余地がないために緑被地が存在しない敷地も多い。一方で、樹木がある場合は生長によって樹冠面積が拡大し、緑被率の向上が確認されている。小規模な敷地においても、樹木の保全や建築物上の緑化を促す施策を実施することで、緑被地増加に貢献できると考えられる。

2-2 屋上緑地、壁面緑化の維持管理対策

建築物上の緑化は、地上部の緑化と比較して植物の生育環境が厳しいものが多い。屋上緑地は緑化計画書制度による緑化指導等の効果によって、緑地面積が3ha以上増加している。今後も建築計画に伴い、屋上緑地は増加すると考えられるが、適切な維持管理も必要となる。維持管理の実態を調査し、必要な支援策等を検討していくことが課題である。

壁面緑化は立面の緑化のため緑被地面積には寄与しないが、緑視率の向上には効果が大きい。緑被率が低く、大規模な開発による緑地の整備が難しい地域では、見える緑を増やしていくことも必要である。壁面緑化は緑化余地が少ない敷地においても緑

化が可能であり、特に、みどりのカーテンは手軽な緑化手法といえる。壁面緑化による多様な効果、緑化事例の紹介等の啓発活動により、見えるみどりを増やしていくことが重要である。

2-3 保護樹木の維持管理について

本調査では、樹木医による保護樹木調査を実施した。保護樹木として約1,200本が指定されており、多くが学校等施設、寺社にあるが、個人所有の保護樹木も多い。新宿区のような都市にある樹木は、隣地への枝葉の越境、隣接する建物の接近、土壌の固結など、生育条件が厳しいものが多いが、樹木所有者の努力によって維持管理されてきている。また、近年では、強風や台風の倒木事故も発生しており、樹木の状態を定期的に確認することの重要性が増している。保護樹木所有者が、安心して維持管理していくためには、行政による樹木の健全度調査、助成等の負担軽減策とともに、地域の保護樹木に対する理解を深めていくことも重要である。

2-4 生物多様性への配慮

新宿区は都市化が進んだ都市構造であるが、新宿御苑をはじめとした大規模な緑地があり、新宿区生き物調査では、都市環境に適応した特定の生きものが広く生息していることが確認されている。また、緑化計画書のチェックリストでは、生きものへの配慮事項も項目のひとつとなっている。

生物多様性の確保には、生きものが生息・生育できる環境を維持保全していくことが重要である。緑地や水辺を増やしていくことも必要であるが、在来種を植栽する、過度な草刈りをしないなど生息環境を整備していくことが重要である。また、生物多様性確保は将来に続く活動であるため、次世代を担う子どもたちが生きものに興味をもち、生物多様性への理解、活動につなげていくことが必要である。そのため、生きものの生息・生育環境の維持保全や拡大とともに、普及啓発活動を継続して実施することが必要である。

2-5 その他調査

(1) 小規模民間緑被地の推移分析調査

公園、学校等の面積規模が大きい公共施設用地を除いた小規模な民間施設の敷地にある緑被地を対象に、地域別の緑被率を比較し、緑被状況を調査した。

区全体の小規模民間緑被地面積は10.05haで、全体緑被地面積の約3%であった。地域別の緑被率の順番は、落合第一地域8.36%、若松地域7.71%、落合第二地域6.84%であった。緑被地全体では若松地域、四谷地域、新宿駅周辺地域の順番であるが、小規模民間緑被地を対象とした場合は、落合第一地域と落合第二地域が上位に来ることが分かる。

小規模民間緑被地の変化が大きい（緑被地面積の増減が大きい）場合は、建築計画を伴うものが多い。また、庭木等の生長によって樹冠面積が増えたことで緑被率が増加する事例も多く確認された。

(2) 都市開発事業等による緑地の推移分析調査

高度利用地区、総合設計制度、及び特定街区、再開発促進区の適用を受ける施設の緑被地の変化状況を調査した。

都市開発事業等の多くの区域では地区計画地区が指定されており、地区計画地区内の緑被地面積は、平成 17 年度調査から 4.66ha 増加している。特に屋上緑地の増加が大きく 2.23ha の増加であった。

また、特定街区の多くが昭和 40 年代から 50 年代に整備された新宿副都心であるが、平成 17 年度における特定街区の合計緑被率が 18.35%と比較的高い数値であり、その後も緑被率 20%以上を維持していることから、大規模な開発事業で整備された緑地が、適正に維持管理されていることが分かる。

(3) 緑視率調査

「新宿区みどりの基本計画（改定）」の緑視率モデル地区候補である榎地域と四谷地域を中心に、25 地点 78 方向の緑視率を計測した。

78 方向の平均緑視率は 11.64%であった。みどりの少ない地域を中心に選定しているため、約 4 割が緑視率 5%未満であった。

平成 28 年度緑視率調査と同一地点における緑視率の比較では、緑視率が増加した地点の多くが、建築計画により接道部に緑化されたことによるものであった。規模が大きい建築計画等では緑視率が 10 ポイント以上増加している箇所もあり、建替え等の機会を活用して接道部に緑化を誘導することは、緑視率の向上に効果があると考えられる。

(4) 緑化モデル地区検討調査

「新宿区みどりの基本計画（改定）平成 30(2018)年 3 月」では、みどりのモデル地区（みどりの保全モデル地区、みどりの推進モデル地区、屋上緑化等推進モデル地区、緑視モデル地区）を定め、地域の特性に合わせたみどりの保全と緑化の推進を図ることとしている。本調査結果を用いて、各みどりのモデル地区候補地としての考え方を、以下のとおり整理し、候補地を検討した。

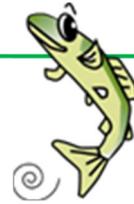
みどりの保全モデル地区は、比較のみどりが多い地域において現状のみどりの保全を重点的に実施する地区である。このため、公園や大学等の公共公益施設を除く民有地の緑被率の高い地域を候補地とした。

みどりの推進モデル地区は、現状の緑被率が低く、緑化の推進が特に必要な地区である。このため、民有地の緑被率、接道緑化の低い地域を候補地とした。

屋上緑化推進モデル地区は、地上部緑化が困難で建築物上の緑化の誘導が効果的な地区である。現在指定している新宿駅周辺地域、四谷地域と大久保地域の一部の商業地域も含めて検証し、効果の高い地区を候補地とした。

緑視モデル地区は、緑被率の向上が難しいことから、見えるみどりを増やすための地区である。このため、接道緑化が少なく、接道緑化余地のない小規模な敷地の多い地域を候補地とした。

～ 神田川にアユが来た！ ～



神田川は井の頭公園を水源とし、新宿区の西端と北端を流れ、飯田橋駅付近で旧江戸城外堀と合流します。実はこの神田川、江戸時代に江戸市中に良質な飲み水を供給するために人工的につくられた河川です。しかし時代が進み、高度経済成長期になると生活排水や工業排水などの流入により悪臭が発生し、生き物が生息できないような環境になりました。

一時は「死の川」とさえ呼ばれた神田川ですが、平成4年にはアユの遡上が確認され、平成8年から毎年行っている神田川生き物実態調査でも毎回確認されています。アユはなぜ遡上してくるようになったのでしょうか。

理由1・・・水質がよくなった

新宿区の上落合にある落合水再生センターでは下水を浄化処理して、神田川に放流しています。昭和62年、落合水再生センターに高度処理（砂ろ過法）が導入されたことで、神田川の水質は急速によくなりました。川の水がきれいになったことで、アユなどの生き物が生息しやすい環境になりました。

理由2・・・魚道が設置された

神田川には川の流れを緩やかにするための段差がつくられていて、アユなどが移動したり遡上したりするにはかなり困難な状況でした。そこで東京都が高戸橋付近で、落差を小さくすることによってアユなどが自由に行き来できるように整備しました（平成9年完成）。また、河床に砂利を敷くことでアユなどの餌となる藻が生えるようになり、強い流れから避けて休憩することができるようになりました。

理由3・・・増水時の水量が調整できるようになった

昭和60年代から様々な治水対策が進められ、大雨が降っても水量を一定に保ちやすくなったため、アユなどが下流まで流される頻度も減るようになりました。特に大きな治水対策として地下調節池の整備が挙げられます。環状7号線の地下50mの深さに内径12.5m、全長2kmもの調節池が平成9年に建造されました。河川の水位が一定値を超えた際に川の水が調節池に流れ込み、水位を一定に保ちます。令和元年10月に東京を豪雨が襲った時も増水した川の水が調節池に流れ込み、神田川が溢れずにすみました。

このような理由からアユが遡上できるようになったのだと考えられます。

なお神田川生き物実態調査では、令和2年までにアユやオイカワ、ドジョウ、ボウなど12科25種の生き物を確認しています。調査は一般の方と共同で行うこともあります。

例年4月頃に区の広報やホームページで生き物調査の参加者を募集しますので、神田川での生き物に興味がある方はぜひご参加ください。



生き物実態調査で採捕したアユ



高戸橋付近の魚道（右側部分）